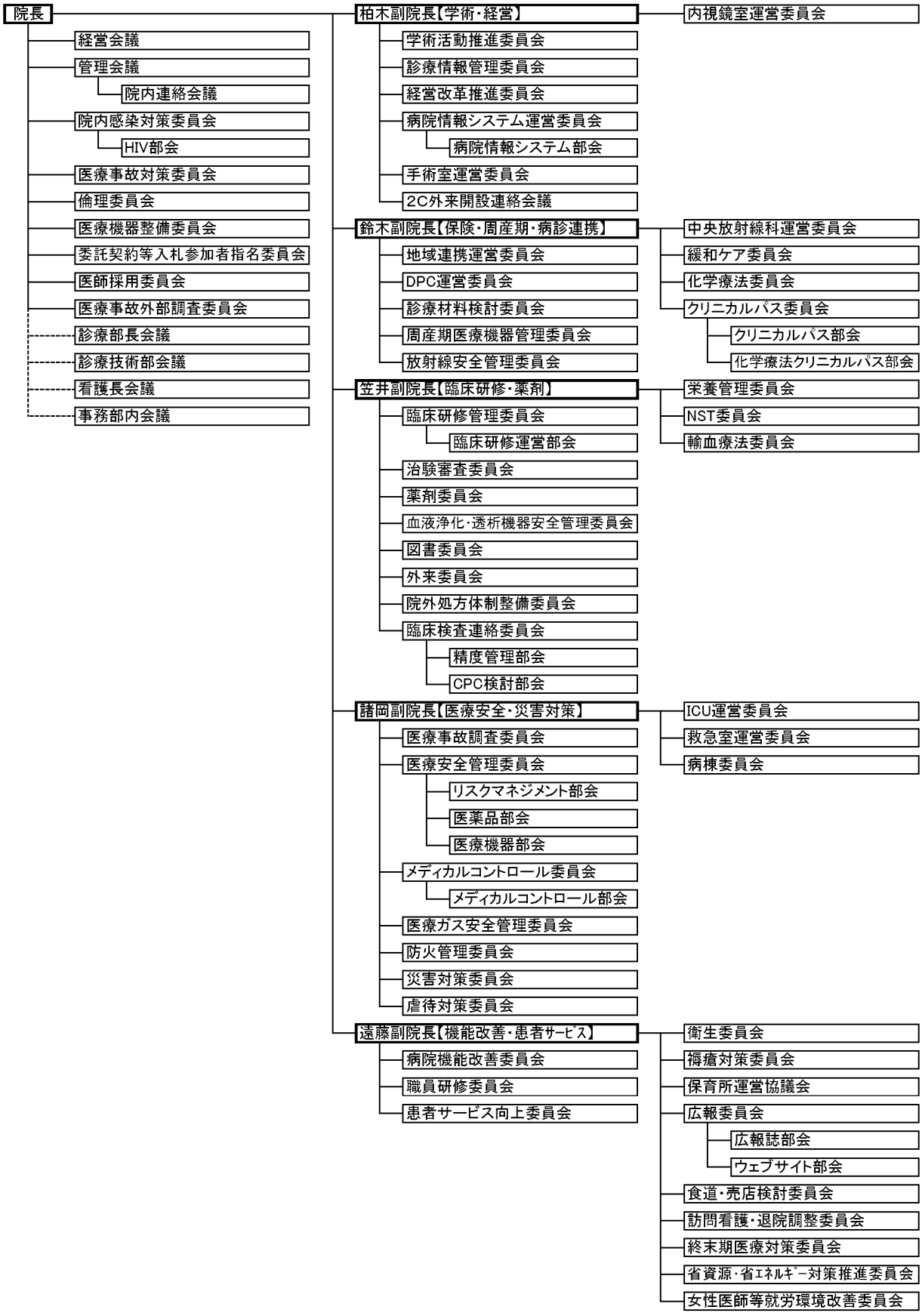
17　院内各種委員会等の活動実績

各種委員会等一覧（掲載ページ）

ページ	委員会名	ページ	委員会名
127	衛生委員会	166	食堂・売店検討委員会
128	保育所運営協議会	167	経営改革推進委員会
129	ＤＰＣ運営委員会	168	化学療法委員会
131	職員研修委員会	169	診療材料検討委員会
132	図書委員会	170	ＩＣＵ運営委員会
133	診療情報管理委員会	172	医療事故調査委員会
135	医療機器整備委員会	173	医療事故対策委員会
136	手術室運営委員会	174	病院情報システム運営委員会
138	薬剤委員会	175	血液浄化・透析機器安全管理委員会
139	治験審査委員会	177	周産期医療機器管理委員会
141	医療ガス安全管理委員会	178	地域連携運営委員会
143	臨床研修管理委員会	179	患者サービス向上委員会
145	院内感染対策委員会	181	学術活動推進委員会
146	倫理委員会	182	病棟委員会
147	訪問看護退院調整委員会	184	院外処方体制整備委員会
148	栄養管理委員会	185	女性医師等就労環境改善委員会
149	中央放射線科運営委員会	186	外来委員会
150	臨床検査連絡委員会	188	放射線安全管理委員会
151	救急室運営委員会	189	災害対策委員会
152	内視鏡室運営委員会	191	防火管理委員会
153	褥瘡対策委員会	192	虐待防止委員会
155	クリニカルパス委員会	193	臨床研修センター
157	病院機能改善委員会	194	富士市透析防災ネットワーク
159	ＮＳＴ委員会	196	富士市CKD(慢性腎臓病)ネットワーク運営委員会
161	輸血療法委員会	197	省資源・省エネルギー対策推進委員会
162	医療安全管理委員会		メディカルコントロール委員会
164	緩和ケア委員会		終末期医療対策委員会
165	広報委員会		２Ｃ外来開設連絡会議

委員会・各種会議　組織図

（平成26年4月1日現在）



■衛生委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	千葉　博胤（小児科）	副委員長	木村　哲夫（呼吸器内科）
副委員長	北村　博顕（外科）	委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）
委員	小坂　裕介（薬剤科）	委員	渡邉　修（臨床検査科）
委員	井出　敦之（中央放射線科）	委員	長嶋　泰玄（リハビリテーション科）
委員	大山　実希（栄養科）	委員	芦原　裕子（４Ｂ病棟）
委員	飯野　球代（５Ｂ病棟）	委員	小林　江里子（５Ａ病棟）
委員	宮川　亜代子（３Ｂ病棟）	委員	鈴木　春美（５Ｂ病棟）
委員	玉舟　正弥（病院総務課）	委員	岩垣　哲也（医事課（地域連携室））
委員	小林　あゆ美（病院経営課）	事務局	帯津　百枝（病院総務課）
事務局	井出　大介（病院総務課）		

概要

労働安全衛生法第 18 条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進、及び公務災害の原因、再発防止対策や安全に職務を遂行できる環境を整えることを目的として、対策の協議や審議を行う。

2　開催回数

１回／月

3　平成 26 年度の取組実績

（１）定期健康診断の実施

（一般定期健診、特定業務従事者健診、電離放射線業務従事者の健康診断など）

（２）ワクチン接種

（インフルエンザワクチン接種、HB ワクチン接種、HBV 及び HCV 検診）

（MR ワクチン接種）

（３）安全衛生対策の計画及び実施（安全衛生事業計画など）

（４）病棟職場巡視

4　来年度の課題

（１）健康診断の受診率 100％を目指し、職員への周知を図るとともに、要受診者等に対するフォローを徹底する

（２）公務災害・労働災害件数を減らす

（３）職場巡視を行い職員の安全・安心を守る　　（文責　木村　哲夫）

■保育所運営協議会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
会長	杉沢　利次（事務部長）	副会長	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）
会員	藤本　浩二郎（診療技術部長）	会員	三國　実保（５Ａ病棟）
会員	白川　安俊（病院総務課）	会員	内藤　榮一（緑が丘保育園園長）
会員	佐藤　惠美子（保育所）	事務局	村松　真己子（病院総務課）

2　開催回数

１回

3　平成 26 年度の取組実績

・保育所運営協議会の開催および保育所運営の変更

昭和 60 年から院内保育所の運営を委託により行っている。本協議会は保育所の運営における必要な事項の協議を行っている。

平成 26 年 9 月 30 日に開催された保育所運営協議会において以下の３点について協議を行い、平成 26 年 11 月１日より運営内容を変更した。

①運営時間の変更

曜日	変更前	変更後
平　日	午前７時 30 分～午後６時 30 分	午前７時～午後７時
土曜日	午前７時 30 分～午後５時	午前７時～午後７時

※木曜日は、早出業務対応のため、午前６時 45 分を開始時間とした。

②午後６時頃、簡単なおやつを児童に支給する。

③急遽、児童を預けなければならない際、児童受入れについて対応する。

4　来年度の課題

児童にとってより良い保育所となるよう、環境整備に努めていきたい。また、保育所の児童数が年度途中増加した際の円滑な保育所運営の実施を行っていく。

（文責　杉沢　利次）

■ＤＰＣ運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	副委員長	三川　秀文（循環器内科）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	野田　靖人（脳神経外科）
委員	道躰　隆行（外科）	委員	大野　真一（臨床検査科）
委員	渡邉　浩臣（薬剤科）	委員	花崎　久美子（６Ｂ病棟）
委員	春山　辰巳（病院経営課）	委員	福良　孝生（医事課）
事務局	寺田　和子（医事課）	事務局	島田　英介（医事課）

2　開催回数

12回（毎月１回、第４木曜日）・コーディング勉強会　２回

3　平成26年度の取組実績

DPC運営委員会では年間を通じて診療報酬請求査定率の推移、査定改善策の検討、再審査請求の報告、各外部保険団体からの審査報告、DPC症例からの基本統計、臨床評価指標、分析結果の報告、DPCや診療報酬に関連したトピックスの報告を行った。

今年度より例月の委員会終了後、診療報酬請求の査定内容を「査定改善策の報告」として毎月各科に配付した。また、施設基準の総合入院体制加算２において加算取得のための算定要件を提示し、関係する委員会へ協力要請を掛け、算定の徹底を提案した。

4　来年度の課題

平成28年度診療報酬改定に向けての情報収集並びに新規施設基準獲得、DPC機能評価係数Ⅱアップの為の対策を検討課題とする。

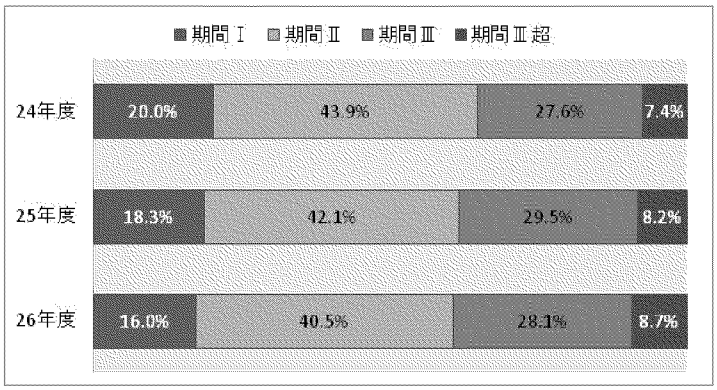
【委員会資料】

診療報酬査定：社保・国保・後期高齢科別返戻・査定状況、月別返戻・査定状況、診療科別返戻・査定状況、診療区分別返戻・査定状況、査定改善策

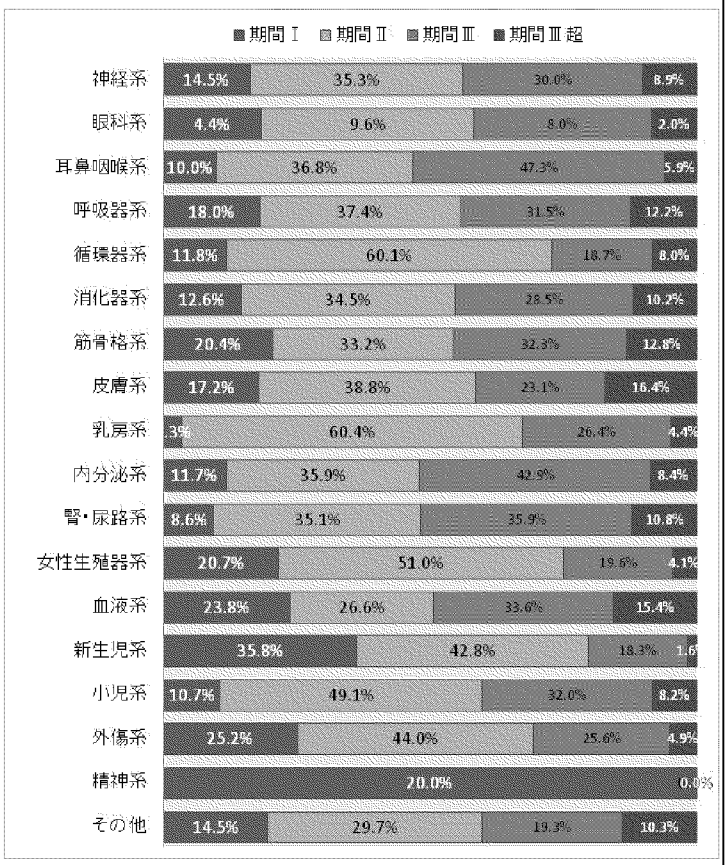
ＤＰＣ　統　計：出来高比稼働額統計、DPC症例（平均在院日数、期間比率、詳細不明コード率等）、臨床評価指標（死亡率、医療関連感染発生リスク、再入院率、緊急手術率等）、DPC件数、増収、減収TOP20

ＤＰＣ　分　析：外泊損失分析、地域シェア等の厚生労働書データを利用した分析

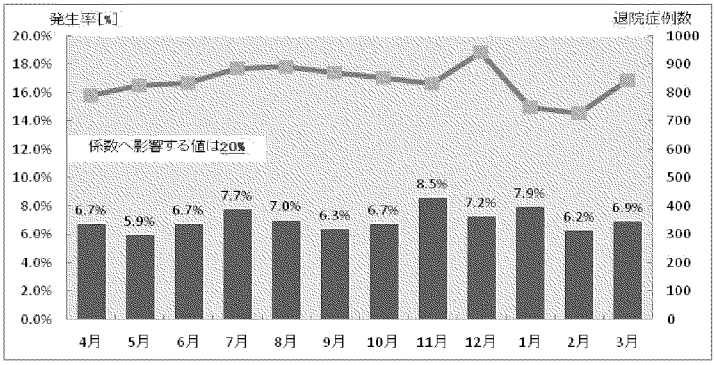
DPC 入院期間比率



DPC　MDC2 別入院期間比率



DPC 詳細不明コード発生率推移



【解説】

DPC は病名と治療行為の組み合わせにより入院期間に区切りが設定されており、入院期間は、全国の DPC 病院から集められた情報により厚労省が設定している。期間の設定は<u>入院期間Ⅱ</u>が全国平均の入院期間である。

DPC ではこの入院期間Ⅱまでの割合が高いほど、効率的に治療が行われていると判断され、DPC を構成する**効率性係数**という部分に影響する。また DPC で設定された詳細不明コードの割合も効率性係数同様、**データ提出係数**という部分に影響する。こちらは厚労省に出すデータの精度を評価したものになる。

これらの係数が大きい病院のほうが高度な医療機能を有するとみなされ、１日あたりの診療報酬単価を高く請求することができる。

（文責　鈴木　康之）

■職員研修委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	副委員長	津嶋　友央（皮膚科）
副委員長	藤澤　睦子（副看護部長）	委員	手老　真弓（臨床検査科）
委員	稲垣　伸一（中央放射線科）	委員	松田　祐平（薬剤科）
委員	神谷　ちとせ（４Ｂ病棟）	委員	池田　裕美（５Ｂ病棟）
委員	佐野　麻由美（６Ｂ病棟）	委員	渡邊　志津子（７Ｂ病棟）
委員	芦川　牧子（手術室）	委員	香川　國代（外来Ｃ）
委員	宇佐美　雄二（病院経営課）	委員	齋藤　智恵美（医事課）
事務局	齋藤　千賀子（病院総務課）		

2　開催回数

８回（内１回は講演会）不定期

3　平成 26 年度の取組実績

職員研修委員会は、職員の能力及び勤務能率の向上を図ることを目的として、昭和 60 年７月１日に設置された。

主とする活動内容は院内職員向けの研修企画と先進病院等の視察である。

昨年度に続き、職員のリフレッシュと専門分野以外の知識の向上を目的に、外部講師を招き、講演会「世界一受けたい　うみの授業　～地球環境はいま～」を開催し、131 名の参加があった。

また、先進病院等の視察ではテルモメディカルプラネックス（神奈川県足柄上郡）を見学した。最先端の病院機能を作りこんだホスピタルスタジオで臨床現場を再現した環境の中で行われているトレーニングの見学や手技を体験し、新たな気づきを発見できた。

4　来年度の課題

職員のリフレッシュを目的とした研修会の開催をはじめ、先進病院等への視察を引き続き計画し、職員の能力向上に繋げていく。

また職員満足度調査に係る改善策として打ち出された、院内で実施している研修一覧を作成し、より有意義に職員が研修に参加できるように情報提供をしていく。

（文責　遠藤　さよ子）

■図書委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司(副院長兼腎内科部長)	副委員長	平川　正彦（形成外科）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	藤谷　暢子（眼科）
委員	重田　泰史（耳鼻咽喉科）	委員	遠藤　泰彦（病理科）
委員	入村　雄也（外科）	委員	坂本　佳那子（整形外科）
委員	傳田　良亮（整形外科）	委員	藤澤　睦子（副看護部長）
委員	白川　安俊（病院総務課）	事務局	名切　孝介（医事課）
事務局	齋藤　智恵美（医事課）		

2　開催回数

3回

3　平成26年度の取組実績

・年間で277冊の医学書籍の購入を行った。
・雑誌125誌の定期購読契約更新（和雑誌103誌・洋雑誌22誌）と6誌（全和雑誌）の新規契約を行った。
・オンライン電子図書サービスの「メディカルオンライン」「J dreamⅢ」「医中誌」「今日の診療」「電子ジャーナル」「Clinical Key」の更新を行った。
・電子書籍の利用を促進するため、オンライン電子図書サービスの案内を全医師に対して行った。

4　来年度の課題

・医学雑誌の電子ジャーナル化を一層促進するとともに、定期購読誌の見直しを行う。
・オンライン電子図書サービスの利用率を高めるため、積極的な利用案内を行う。
・医学資料室の利便性や機能性の向上に向けて検討を行う。
・医学資料室利用マニュアルを整備する。
・医学資料室の正規職員増員に伴い、各種医療機関図書室研修会へ参加し、内容を委員会へフィードバックする。

（文責　笠井　健司）

■診療情報管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	阪本　宏志（循環器内科）
委員	加藤　努（整形外科）	委員	津島　友央（皮膚科）
委員	藤谷　暢子（眼科）	委員	鈴木　英訓（泌尿器科）
委員	瀧　謙太郎（代謝一般内科）	委員	森本　康江（５Ｂ病棟）
委員	齋藤　幸子（医事課（地域連携室））	事務局	島田　英介（医事課）
事務局	齋藤　智恵美（医事課）		

2　開催回数

５回（隔月、第３木曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

診療情報管理委員会では、病院機能評価で確認を受けた部分と医学資料室の業務拡大等に関して検討し、以下の内容を実施した。

・臨床指標項目の定義式の設定と、機能評価で求められている臨床指標の項目について検討を行った。（検討臨床指標は図１）
・充実した電子カルテを目指して、院外死亡情報の電子カルテの記録について情報を収集し、医学資料室で集約して登録を行うようにした。
・電子カルテ更新に伴う、電子情報の保存期間について、病院情報システム運営委員会より依頼で検討を行った。画像データについては５年、クラウド化できるのであれば長期間（永年も含めて）保存の方向性を伝えた。
・退院後カルテのスキャン場所について、退院日に集約してスキャンをするよう統一した。
・インフォームドコンセント（説明と同意）の規程の改訂について医療安全管理委員会へ改訂意見の提供を行った。

4　来年度の課題

来年度は臨床指標（クリニカルインディケーター）の公開、電子カルテスキャン書類を統一したマニュアルの作成、診療録の破棄について検討を行う。

（文責　柏木　秀幸）

【図１】設定臨床指標一覧

評価項目	算出方法
基本項目	
平均在院日数（短期滞在手術料等を除く）	実退院患者の在院日数合計-短期滞在手術料患者の在院日数合計÷退院患者数-短期滞在手術料患者
院内粗死亡率	死亡患者÷退院患者×100
院内精死亡率	入院後 48 時間以後の死亡患者÷退院患者
術後死亡率	入院手術後 30 日以内死亡患者数÷手術患者　×100
剖検率	剖検数÷年間死亡患者数（入院・外来）
政策医療指標	
退院後在宅復帰率	実退院患者÷退院経路が自宅退院の退院患者
後発薬使用率	後発医薬品の数量÷後発薬のある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量
診療プロセス	
敗血症　血液培養検査実施率	敗血症血液培養実施症例数÷敗血症症例数
褥瘡有病率	調査日に褥瘡を保有する患者数÷調査日の入院患者数×100
褥瘡保有率	調査日に褥瘡を保有する患者数-入院時に褥瘡保有が記録されている患者÷調査日の入院患者数
退院後６週間以内の再入院率	退院後６週間以内の予定外入院÷退院患者数
24 時間以内再手術率	24 時間以内再手術患者÷手術室患者数
手術延長率（在室時間）	予定時間より延長した手術件数÷手術室患者数
薬剤指導件数	
栄養指導件数	個別栄養指導件数
クリニカルパス実施状況	クリニカルパス適応患者÷入院患者数
NST 依頼件数	NST 依頼件数
緩和ケア依頼件数	緩和ケア依頼件数
手術症例肺塞栓症発生率	入院後肺塞栓症数÷肺塞栓症のリスクレベル中以上の手術症例
診療記録	
14 日以内サマリー作成率	14 日以内にサマリー記載完了した退院患者数÷退院患者数

■医療機器整備委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	小野寺　昭一（院長）	委員	杉沢　利次（事務部長）
委員	伊東　禎浩（病院経営課）	委員	白川　安俊（病院総務課）
事務局	塩澤　忠生（病院総務課）		

2　開催回数

4回

3　平成26年度の取組実績

医療機器の適正なる整備を図ることを目的とし、以下の高額医療機器の購入に際し、納入価格や機器の性能等を総合的に検討し購入機種を決定した。

・X線TV装置の更新（島津製作所製、中央放射線科）
・循環器用超音波診断装置の更新（フィリップス社製、循環器科）
・手術台の更新（マッケ社製、手術室運営委員会）

4　来年度の課題

平成27年度購入予定機器

・無影灯の更新
・手術台の更新
・内視鏡システムの更新

（文責　小野寺　昭一）

■手術室運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	銅谷　実（麻酔科）
副委員長	今野　美枝子（手術室）	委員	平川　正彦（形成外科）
委員	宇田川　崇（腎内科）	委員	織井　恒安（心臓血管外科）
委員	良元　和久（外科）	委員	田邊　登崇（整形外科）
委員	後藤　博一（泌尿器科）	委員	小田　智昭（産婦人科）
委員	藤谷　暢子（眼科）	委員	森本　宰充（耳鼻咽喉科）
委員	阪本　宏志（循環器科）	委員	坂本　広喜（脳神経外科）
委員	井出　正俊（歯科口腔外科）	委員	鈴木　和訓（中央放射線科）
委員	山元　義雄（臨床工学科）	委員	長峰　誠一郎（臨床検査科）
委員	石川　裕子（手術室）	委員	望月　久子（手術室）
委員	加藤　美奈子（手術室）	委員	中川　貴裕（病院総務課）
事務局	手術室		

2　開催回数

12回（毎月1回、最終月曜日）

3　平成26年度の取組実績

1）平成26年度の手術室を利用した手術は、総手術件数3,729件（平成25年度3,533件, 平成24年度3,501件)、緊急手術563件(485件, 475件)、定期手術3,166件（3,048件, 3,026件)、全麻手術1,564件（1,397件, 1,221件)、全麻以外2,165件（2,136件, 2,280件）であった。手術件数は196件(5.5%)増加しているが、特に全麻手術167件（12%）の増加が顕著であった。このような手術件数の増加に対し、安全性の強化を図った。

2）科別の手術枠利用率は高くなっているが、手術件数の増加により科別の手術延長時間、定期手術の退出時間が午後５時以降となる件数は依然として多い。

3）特殊手術や危険性の高い手術に関するカンファレンスを行った。

4）体腔内手術終了時の遺残に関するエックス線撮影による二重チェック体制を開始した。

5）各科毎の輸血同意書に必要な規準を作成・運用を開始した。

4　来年度の課題

1）稼働手術室の増加：休止している第５室の使用再開とその準備を行う。

2）年々増加する手術件数に対する手術室における安全体制の確立を行う。

3）手術室における患者生体情報の保存体制の見直しを行う。

4）手術室の老朽化した診療機器の更新を行う。

（文責　柏木　秀幸）

平成26年度　手術室稼働統計

【緊急・定期別件数】

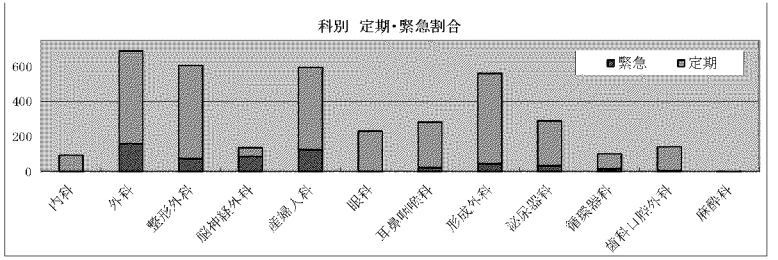
診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
		緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期	緊急	定期
内科	94		10	1	5		6		5		9		5		12		8		10		9		8		6	1	93
外科	690	12	52	11	41	15	42	9	51	23	50	12	42	13	40	15	40	16	51	9	40	11	43	13	39	159	531
整形外科	608	8	49	11	37	5	41	2	46	2	36	6	40	6	51	8	42	4	49	6	57	8	44	7	43	73	535
脳神経外科	136	7	3	8	3	8	5	11	5	7	5	9	7	6	5	8	3	6	2	6	8	4	1	6	3	86	50
産婦人科	597	13	43	7	28	7	36	15	38	10	46	10	47	6	41	14	32	10	36	13	31	11	39	9	55	125	472
眼科	230		12		16		23		12		17		21		25		19	1	17	1	22		18		26	2	228
耳鼻咽喉科	282	4	18	1	20		18	2	25	2	32	2	20	1	21	2	23	1	16	2	20	2	21	3	26	22	260
形成外科	561	6	37	5	46	1	51	4	50	4	38	6	47	3	54	3	40	5	31	4	32		43	2	49	43	518
泌尿器科	289	4	18	2	25		26	3	27	4	19	2	21	3	19	1	15	5	24	2	16	2	21	4	26	32	257
循環器科	100		3	1	5		3	2	10		6		8	1	10	1	12	1	9	3	5	4	5	2	9	15	85
歯科口腔外科	141		17	2	11	1	11		15		11		12		14		8		9		6	1	10		13	4	137
麻酔科	1													1												1	
総計	3729	54	262	49	237	37	262	48	284	52	269	47	270	40	292	52	242	49	254	46	246	43	253	46	295	563	3166

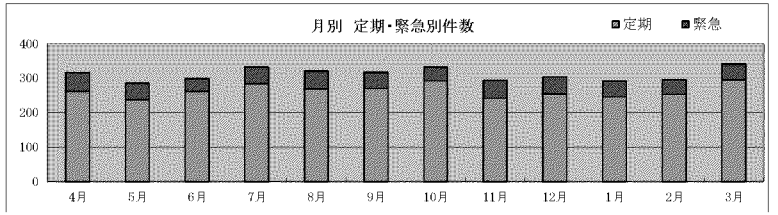
【麻酔区分別件数】

診療科	総計	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		総計	
		全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外	全麻	全麻以外
内科	94		10		6		6		5		9		5		12		8		10		9		8		6		94
外科	690	44	20	30	22	34	23	37	23	50	23	38	16	32	21	37	18	47	20	35	14	40	14	39	13	463	227
整形外科	608	22	35	20	28	13	33	20	28	17	21	12	34	22	35	18	32	20	33	17	46	11	41	22	28	214	394
脳神経外科	136	5	5	4	7	5	8	6	10	7	5	7	9	7	4	6	5	6	2	6	8	3	2	3	6	65	71
産婦人科	597	23	33	20	15	27	16	27	26	30	26	21	36	22	25	19	27	21	25	22	22	22	28	32	32	286	311
眼科	230		12	1	15		23	1	11	1	16		21		25	1	18	2	16	1	22		18	1	25	8	222
耳鼻咽喉科	282	19	3	17	4	17	1	22	5	28	6	19	3	20	2	20	5	15	2	19	3	21	2	25	4	242	40
形成外科	561	4	39	5	46	9	43	10	44	10	32	2	51	7	50	6	37	5	31	4	32	6	37	4	47	72	489
泌尿器科	289	4	18	5	22	3	23	3	27	6	17	3	20	4	18	3	13		29	3	15	3	20	4	26	41	248
循環器科	100		3	3	3	2	1	3	9	2	4	3	5	4	7	4	9	4	6	3	5	5	4	7	4	40	60
歯科口腔外科	141	16	1	13		10	2	14	1	11		11	1	14		8		9		4	2	10	1	13		133	8
麻酔科	1														1												1
総計	3729	137	179	118	168	120	179	143	189	162	159	116	201	132	200	122	172	129	174	114	178	121	175	150	191	1564	2165

【手術室稼働件数・年別推移】

診療科	申込区分別						麻酔区分別						合計		
	定期			緊急			全麻			全麻以外					
	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
内科	84	70	93	1	1	1		1		85	70	94	85	71	94
外科	557	569	531	160	161	159	409	469	463	308	261	227	717	730	690
整形外科	387	437	535	65	61	73	105	133	214	347	365	394	452	498	608
脳神経外科	77	87	50	58	80	86	80	95	65	55	72	71	135	167	136
産婦人科	503	501	472	115	112	125	228	270	286	390	343	311	618	613	597
眼科	268	237	228	2	4	2	7	13	8	263	228	222	270	241	230
耳鼻咽喉科	247	200	260	6	7	22	154	164	242	99	43	40	253	207	282
形成外科	473	486	518	44	30	43	59	70	72	458	446	489	517	516	561
泌尿器科	224	263	257	18	24	32	42	36	41	200	251	248	242	287	289
循環器科	84	51	85	5	1	15	31	6	40	58	46	60	89	52	100
歯科口腔外科	122	147	137		3	4	106	139	133	16	11	8	122	150	141
放射線科					1			1						1	
麻酔科				1		1				1		1	1		1
総計	3026	3048	3166	475	485	563	1221	1397	1564	2280	2136	2165	3501	3533	3729





■薬剤委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	落合　敏明（薬剤科）
委員	阪本　宏志（循環器内科）	委員	藤谷　暢子（眼科）
委員	木村　哲夫（呼吸器内科）	委員	平川　正彦（形成外科）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	重田　泰史（耳鼻咽喉科）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	銅谷　実（麻酔科）
委員	森田　昌代（神経内科）	委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）
委員	瀬川　孝昭（小児科）	委員	織井　恒安（心臓血管外科）
委員	加藤　努（整形外科）	委員	野田　靖人（脳神経外科）
委員	津嶋　友央（皮膚科）	委員	遠藤　泰彦（病理科）
委員	後藤　博一（泌尿器科）	委員	良元　和久（外科）
委員	矢田　大輔（産婦人科）	委員	松井　洋（放射線科）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	福良　孝生（医事課）	事務局	薬剤科

2　開催回数

原則として年３回開催【６月・10 月・２月の第３週月曜日：平成 26 年６月 23 日（月）、平成 26 年 10 月 27 日（月）、平成 27 年２月 23 日（月）】

3　平成 26 年度の取組実績

新規採用薬品、院外処方許可薬品、後発薬品、削除薬品の選定、その他医薬品に関する審議を行った。

①新規採用薬品　　：68 品目
②院外処方許可薬　　：32 品目
③後発薬品　　：26 品目
④削除薬品　　：30 品目
⑤後発薬品置き換え率：63.3％

4　来年度の課題

①採用薬品の選定：診療に支障が出ることがないよう、適切な医薬品採用に努める。必要があれば薬効郡別に採用が適切か検討する。

②後発薬品の選定：「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に従って、後発薬品置き換え率を維持するよう努める。薬効・剤形・経済性を考慮し、作用が適切か検討する。

（文責　笠井　健司）

■治験審査委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司(副院長兼腎内科部長)	副委員長	落合　敏明（薬剤科）
委員	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長)	委員	諸岡　暁(副院長兼脳神経科部長)
委員	遠藤　さよ子(副院長兼看護部長)	委員	杉沢　利次（事務部長）
委員	福良　孝生（医事課）	事務局	薬剤科

2　開催回数

０回（但し、外部主催による研修会に３回出席）

3　平成 26 年度の取組実績

治験審査委員会として認められる組織の構築及び最新情報収集のための研修会に出席した。

（１）平成 26 年 10 月４日（土）～５日（日）

研修名：臨床試験支援財団主催「第 14 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議」

場　所：アクトシティ浜松

出張者：薬剤師　佐藤　実香

内　容：厚生労働省の担当官による「臨床研究・治験活性化５ヶ年計画 2012」の達成状況、実際に機能している大規模ネットワークの浜松医科大学を中心とする「とおとうみ臨床試験ネットワーク」の紹介、また、新しい課題として再生医療に関わる治験への取り組み等。

（２）平成 26 年 11 月 21 日（金）

研修名：日本薬剤師会主催「第 18 回治験事務局セミナー2014」

場　所：慶應義塾大学薬学部　芝共立キャンパス

出張者：薬剤師　佐藤　実香

内　容：治験を含む“臨床研究”全般の質を確保するための取り組み、利益相反（COI）管理、従来の事後対応型から予測予防型の調査が求められるようになった医薬品リスク管理計画（RMP）への対応等。

（３）平成 26 年 11 月 22 日（土）

研修名：日本薬剤師会主催「病院・薬局薬剤師・薬学部臨床系教員のための臨床研究セミナー」

場　所：品川フロントビル会議室

出張者：薬剤師　佐藤　実香

内　容：「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」が統合

され新たに制定される「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の解説、治験を含む“臨床研究”全般について研究立案から終了までに知っておかなければならないポイント、また、調剤薬局における臨床研究の報告等。

4　来年度の課題

・GCP（Good Clinical Practice：医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令）に則した治験受け入れ体制を整備し、治験審査を開始する。
・委員の構成、SMO（Site Management Organization：治験施設支援機関）との関わりなど委員会のあり方を検討する。

（文責　笠井　健司）

■医療ガス安全管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁(副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	杉沢　利次（事務部長）
委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	委員	銅谷　実（麻酔科）
委員	高橋　昌子（臨床検査科）	委員	井出　宣孝（中央放射線科）
委員	落合　敏明（薬剤科）	委員	山元　義雄（臨床工学科）
委員	白川　安俊（病院総務課）	事務局	中川　貴裕（病院総務課）
事務局	宇佐美　友紀（病院総務課）		

2　開催回数

1回　平成26年6月4日（水）

3　平成26年度の取組実績

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

1）医療用ガスボンベの巡回点検

【日時】平成26年5月22日（木）

【目的】医療用ガスボンベの安全確認と高圧ガスであることの認識を高めるため、各設置場所（19 部署）を巡回点検し、問題がある場合は指導を行い、改善を図る。

【内容】1．酸素ボンベ置場の表示

2．酸素ボンベの本数と保管状況（高圧ガス保安法第15条、保安規則18条）

①酸素の充填容器の周囲2ｍ以内には引火性のものを置かないこと

②転倒防止の措置を講じること

③直射日光に当てないなど常に40℃以下に保つこと

3．流量計取付け用レンチの有無

2）「医療ガス安全使用に関する講習会」の開催

【目的】医療ガス及び医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び取扱者の生命の安全を確保することを目的とする。

日時	対象	参加人数	研修内容
H26. 4.24	新人看護師	34名	酸素ﾎﾞﾝﾍﾞの取扱い（実習・ﾋﾞﾃﾞｵ）
H26. 5.24	卒2看護師他	40名	酸素ﾎﾞﾝﾍﾞの取扱い（実習・ﾋﾞﾃﾞｵ）
H26.11.21 27	医療補助員	89名	事故症例・酸素ﾎﾞﾝﾍﾞについて 配管端末の日常点検

4　来年度の課題

1）医療ガスに関する環境整備（法令順守）の徹底を行い事故防止に努める

2）配管端末器、ホースアセンブリの日常点検の慣習化

3）巡回点検により医療ガスの認識度を高める

4）安全講習会を継続的に開催し、医療ガスによる事故防止の啓発活動に努める

（文責　諸岡　暁）

■臨床研修管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	小野寺　昭一（院長）	委員	梶本　徹也（外科）
委員	後藤　博一（泌尿器科）	委員	瀬川　孝昭（小児科）
委員	銅谷　実（麻酔科）	委員	遠藤　康彦（病理科）
委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）	委員	杉沢　利次（事務部長）
委員（外部）	永井　しづか（富士保健所）	委員（外部）	髙木　啓（鷹岡病院）
委員（外部）	吉川　充（望月産婦人科医院）	委員（外部）	上田　正山（上田クリニック）
事務局	帯津　百枝（病院総務課）		

2　開催状況

第１回臨床研修管理委員会（平成 27 年３月 19 日）

議題（１）平成 26 年度事業報告及び 27 年度事業計画（案）について

（２）平成 26・27 年度の初期臨床研修医について

（３）研修医の研修状況について

（４）平成 27 年度採用研修医のプログラムモデル（案）について

（５）平成 26・27 年度の歯科研修医について

（６）たすきがけ研修医受入について

3　平成 26 年度の取組実績

（１）研修医採用　　医　　師：１名

歯科医師：１名（日本歯科大学の協力病院として８ヶ月）

（２）マッチング　　申込者：２名　マッチ：２名

（３）合同説明会　　①静岡県医師臨床研修病院（初期・後期）合同説明会 in 沼津

平成 26 年６月７日（土）プラザヴェルデ

②静岡県医師臨床研修病院（初期・後期）合同説明会 in 浜松

平成 26 年７月 12 日（土）えんてつホール

③レジナビフェア in 東京 2014

平成 26 年７月 20（日）東京ビッグサイト

④ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ創立記念セミナー

平成 26 年８月 21 日（木）えんてつホール

⑤静岡県医師臨床研修（初期・後期）病院合同説明会 in 静岡

平成 27 年３月 28 日（土）グランシップ

（４）医学生病院見学　８名（慈恵会医科大学、聖マリアンナ医科大学　他）
（５）医師・歯科医師・薬剤師志望の市内高校生１日体験
平成 26 年８月６日（水）　32 名（富士高 23 名、富士東高９名）
（６）ブラックジャックセミナー開催（市内中学生手術模擬体験）
平成 26 年 12 月 13 日（土）　36 名
（７）東部地域病院見学&意見交換会
平成 26 年７月 24 日（木）見学者９名
平成 27 年３月 27 日（金）見学者 22 名

（文責　笠井　健司）

■院内感染対策委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	小野寺　昭一（院長）	副委員長	後藤　博一（泌尿器科）
委員	柏木　秀幸（副院長）	委員	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	委員	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	瀬川　孝昭（小児科）	委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）
委員	高橋　昌子（臨床検査科）	委員	井出　宣孝（中央放射線科）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	藤澤　睦子（副看護部長）
委員	杉沢　利次（事務部長）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
委員	田中　稔（副看護部長兼医療安全対策室長）	委員	増田　満伯（感染対策専従看護師）
事務局	秋山　英希（病院総務課）		

ＨＩＶ部会スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	藤井　常宏（代謝一般内科）	部員	６名

2　開催回数

12回（毎月１回、第１金曜日）

3　平成26年度の実績

病院感染対策の最高機関として院内の感染対策活動を統括した。ICTからの検討事項の承認やインフルエンザ対策としての面会制限、コホート室の確保など病院感染防止を指示した。また、近隣病院の依頼による環境調査を実施するなど地域医療の向上に貢献した。

4　来年度の課題

院内の全ての人を感染から守る活動を推進するとともに、平成26年度に取得した日本環境感染学会認定教育施設としての役割を遂行する。また、地域と緊密な連携をとり、富士医療圏の感染対策強化に努める。

（文責　小野寺　昭一）

■倫理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	小野寺　昭一（院長）	副委員長	柏木　秀幸（副院長）
委員	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）
委員	落合　敏明（薬剤科）	委員	杉沢　利次（事務部長）
外部委員	宮澤　潤（弁護士）	事務局	玉舟　正弥（病院総務課）

2　開催回数

7回（毎月1回、第3木曜日）

3　平成26年度の取組実績

倫理委員会は、当院における医療の倫理に関する事項を審議するため、平成7年5月10日に設置された。

委員会を7回開催、17案件を審議した結果、委員会の意見等を付して17案件を承認した。

申　請　内　容	申請	承認	保留	不承認
論文化、学会雑誌への投稿	2	2	－	－
保険適応外の検査、診療、薬剤使用	3	3	－	－
他施設で行われる治験への参加	2	2	－	－
当院としての対応方針の検討	3	3	－	－
大学・財団等で行われる医学的研究への参加	7	7	－	－

4　来年度の課題

文部科学省・厚生労働省が定めた『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』の原則を踏まえ、倫理的課題を積極的に取り上げ、定期的に委員会を開催し、迅速かつ精緻な審議を行っていく。

（文責　小野寺　昭一）

■訪問看護退院調整委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	伊藤　すみ子（副看護部長）	副委員長	北島　美鈴（外来Ａ）
委員	北村　博顕（外科）	委員	瀧　謙太郎（代謝一般内科）
委員	望月　保子（薬剤科）	委員	佐藤　美智子(在宅療養支援ｸﾞﾙｰﾌﾟ)
委員	秋山　ゆかり（３Ｂ病棟）	委員	滝澤　佐織（７Ｂ病棟）
委員	藤田　久美子（５Ｂ病棟）	委員	仲澤　実加（病院総務課）
委員	伊藤　裕美子（医事課）	委員	佐藤　理絵(医事課(地域連携室))
委員	大山　実希（栄養科）	事務局	村松　和歩(在宅療養支援ｸﾞﾙｰﾌﾟ)

2　開催回数

３回（６月、11 月、３月　第３水曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

（１）訪問看護実施患者の紹介と経過報告

訪問看護実施中の患者さんについて訪問看護師より状態説明を行い、困難ケースや在宅終末期ケアの実際について他のスタッフと検討した。

（２）新規訪問看護患者の紹介と承認

病棟より依頼を受けた患者さんについて、当院での訪問看護を実施するための承認を受けた。承認患者数：40 名

（３）退院調整患者報告

退院調整実施患者の報告を行い、困難事例について検討した。

検討患者数：15 名

（４）訪問看護・退院調整業務の運営における問題点を抽出し、改善点について検討した。

（５）日本看護協会認定 訪問看護認定看護師が看護の専門性を発揮した活動を行った。

4　来年度の課題

平成 27 年度の病院指針「深めよう　知識と技術と思いやり」のもと、訪問看護および退院支援サービスにおいて、地域関係機関と連携し、根拠に基づいた丁寧な医療看護の提供ができるように活動していきたい。

（文責　伊藤　すみ子）

■栄養管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	宇田川　崇（腎内科）	副委員長	藤本　浩二郎（診療技術部長）
委員	木村　哲夫（呼吸器内科）	委員	瀬川　孝昭（小児科）
委員	鈴木　康之（産婦人科）	委員	武田　泰裕（外科）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	高橋　ハマ子（４Ｂ病棟）
委員	森本　康江（５Ｂ病棟）	委員	大塚　君子（６Ｂ病棟）
委員	高井　みさ子（７Ｂ病棟）	委員	杉沢　利次（事務部長）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
事務局	小俣　朋子（栄養科）	事務局	大山　実希（栄養科）

2　開催回数

３回（毎月１回の予定。但し議題がない場合は翌月へ）

3　平成 26 年度の取組実績

①委員会のメンバーで昼食を検食し献立の検討をしている。

②食事についての嗜好調査実施結果を報告した。（年間４回実施）

③箸、スプーン、マグカップの個数については、定期的に報告し確認、併せて破損状況も確認、紛失・破損が多い場合は追加購入を協議し補充していく。

④給食業者は５年契約であり、平成 28 年９月末まで日本ゼネラルフード株式会社と委託契約している。

⑤異物混入等の食事に関するインシデント・アクシデント報告を行い、委員会内で再度その後の対応・改善策について協議した結果、６月５日昼食時より誤配膳防止対策として、禁止食品があるコメント対応患者のトレーは色分け（ピンク色に統一）し、注意喚起している。

⑥破損の多いガラス製哺乳瓶に対し 11 月４日からプラスチック製哺乳瓶に入れ替えた。

4　来年度の課題

今後も検食、嗜好調査を通して病院食のさらなる改善を図っていく。

また、食事に関するインシデント・アクシデント報告については、他部門の意見を取り入れた再発防止策を実践していくことで、インシデント・アクシデント発生件数を減少するように努めていく。

（文責　坪井　一人）

■中央放射線科運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	松井　洋（放射線科）	副委員長	後藤　博一（泌尿器科）
委員	田中　圭（心臓血管外科）	副委員長	井出　宣孝（中央放射線科）
委員	田邊　登崇（整形外科）	委員	鳥巣　勇一（消化器内科）
委員	良元　和久（外科）	委員	坂本　広喜（脳神経外科）
委員	阪本　宏志（循環器内科）	委員	西田　英明（臨床工学科）
委員	遠藤　聡（臨床検査科）	委員	高木　省一（中央放射線科）
委員	清水　則雄（中央放射線科）	委員	遠藤　一弘（中央放射線科）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	小松崎　敏子（外来Ｃ）
委員	杉本　祐介（外来Ｃ）	事務局	遠藤　佳秀（中央放射線科）

2　開催回数

２回

3　平成 26 年度の取組実績

（１）血管造影装置（17 室）に関すること

・診療部各科の予約枠を設定。空いている枠は、各科に交渉窓口となる医師を設定し、話し合いによって有効利用することとした。

（２）多目的 TV 装置（13 室）の故障に関すること

・15 室、12 室の代用は困難。消化管撮影や小児腸重積整復に支障が生じるため、早期更新を提案し、年度内に更新された。

（３）救急室運営委員会より

・当直時間帯の脳梗塞患者に対して、治療を行うために MRI が必要との意見があり、７月から実施できる体制を整えた。

（４）手術室運営委員会より

・開胸、開腹、腹腔鏡、胸腔鏡の術後は全例ポータブル撮影を行いたいとの要請があり、５月から実施している。

（５）ペースメーカー装着患者の MRI 撮影について

・現状では撮影不可。既存 1.5T 装置のバージョンアップで撮影可能であるが、安価な更新ではないため、今後改めて検討する。

（６）その他

・中央放射線科の各装置の稼働状況、病診連携高度医療機器の利用状況等の説明

4　来年度の課題

・各科と協力し、放射線医療機器の円滑な運用を目指す。

（文責　松井　洋）

■臨床検査連絡委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	遠藤　泰彦（病理科）
副委員長	高橋　昌子（臨床検査科）	委員	三川　秀文（循環器内科）
委員	田邊　登崇（整形外科）	委員	瀬川　孝昭（小児科）
委員	比企　能人（代謝一般内科）	委員	兼平　卓（外科）
委員	鈴木　英訓（泌尿器科）	委員	矢田　大輔（産婦人科）
委員	武井　淳（脳神経外科）	委員	大塚　君子（６Ａ病棟）
委員	渡邉　裕子（５Ｂ病棟）	委員	仲澤　実加（病院総務課）
委員	名切　孝介（医事課）	委員	石川　隆之（臨床検査科）
委員	渡辺　修（臨床検査科）	委員	鈴木　雅人（臨床検査科）
事務局	高橋　昌子（臨床検査科）		

目的

臨床検査と他部門との相互の連絡を密にし、業務上の糧とする。

2　開催回数

４回（６月、９月、12 月、３月の第３水曜日に開催）

※委員会報告は電子カルテより閲覧可能

3　平成 26 年度の取組実績

・病棟保管分の採血管の管理を NHS に移行し、定数管理として廃棄物を減らした。
・静脈採血の血液ガス検査の提出をヘパリン採血管（アンモニア用）で可能とした。
・CPC 部会運営について、原則として臨床検査連絡委員会終了後に院内 CPC を開催する事とした。
・HIV 検査について保険適用外の依頼が多いため、輸血療法委員会、DPC 委員会、救急室運営委員会など広くアナウンスし協力要請をした。
・第１回院内 CPC：２症例、第２回院内 CPC：３症例を開催した。

4　来年度の課題

今後も臨床や他部門からの要望、意見には速やかに対応し、新規検査項目の測定などできる範囲で実施していきたい。委員会での報告事項や決定事項についての周知がなされていないため院内広報を徹底していきたい。また、剖検数を増やし院内 CPC の全剖検症例の開催を行いたい。

（文責　笠井　健司）

■救急室運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	藤井　常宏（代謝一般内科）	副委員長	瀬川　孝昭（小児科）
副委員長	坪井　一人（外科）	副委員長	北島　美鈴（外来Ａ）
委員	諸岡　暁(副院長兼脳神経外科部長)	委員	阪本　宏志（循環器内科）
委員	田邊　登崇(整形外科)～10 月	委員	加藤　努（整形外科）11 月～
委員	後藤　博一（泌尿器科）	委員	鈴木　康之(副院長兼産婦人科部長)
委員	鈴木　英昭（臨床検査科）	委員	遠藤　一弘（中央放射線科）
委員	小松崎　敏子（外来Ｃ）	委員	佐野　まり子（外来Ｃ）
委員	杉本　祐介（外来Ｃ）	委員	岩垣　哲也(医事課(地域連携室))
事務局	玉舟　正弥（病院総務課）		

2　開催回数

12 回（毎月１回、第３木曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

平成 26 年度１年間の救急外来受診者数は 9,388 名であり、当院に入院となった患者総数は 4,014 名（入院率 42.8%）。そのうち、休日・祝日・夜間に救急外来を受診した患者総数は 7,435 名で、当院に入院となった患者総数は、3,020 名（入院率 40.6%）であった。

救急車による搬入は総数で 3,357 名であった。そのうち、入院した患者数は 1,941 名（入院率 57.8%）であり、休日・祝日・夜間の救急車での搬入での搬入患者数は 2,374 名であった。そのうち、入院した患者数は 1,351 名（入院率 56.9%）であった。休日･祝日・夜間に医療センターより紹介された患者数は 1,479 名で、そのうち、入院となった患者総数は 768 名（入院率 51.9%）であった。診療所･開業医・病院から休日・祝日・夜間に紹介された患者総数は 1,237 名で、当院に入院となった患者総数は 809 名（入院率 65.4%）であった。

4　来年度の課題

富士市内の二次救急を担う病院は医師不足の状況で救急医療を担っている。そのため、救急医療要請に十分対応できず、近隣の市外の病院への搬送を余儀なくされる事案が生じることもある。この状態を少しでも改善させるためには、二次病院の連携、協力が必要である。また、救急消防隊（警防課）とは３ヵ月毎に救急搬送に関する事例検討を行っている。さらに富士警察署との連絡会議も継続していきたい。

（文責　藤井　常宏）

■内視鏡室運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鳥巣　勇一（消化器内科）	副委員長	北島　美鈴（外来Ａ）
委員	柏木　秀幸（副院長）	委員	梶本　徹也（外科）
委員	木村　哲夫（呼吸器内科）	委員	遠藤　一弘（中央放射線科）
委員	高井　みさ子（７Ｂ病棟）	委員	小松崎　敏子（外来Ｃ）
委員	後藤　光子（外来Ｄ）	委員	佐野　みどり（外来Ｃ）
事務局	内視鏡室		

2　開催回数

９回

3　平成 26 年度の取組実績

（１）内視鏡のオーダーリング項目の見直しを行った。実際には行われていない検査・治療を整理し、頻度の高い検査項目をリストの上に並べた。

（２）外来大腸内視鏡用の専用検査食（クリアスルー）を導入した。

（３）運休していた内視鏡室の３室の運用を再開した。

（４）２室の光源を新規に購入し、２室で使用していた光源を３室に移動した。

（５）上部および下部内視鏡ファイバーを１本ずつ新規に購入した（GIF-H290Z, CF-H290）。

（６）大腸内視鏡前処置の腸管洗浄剤を腸管効果・安全性・受容性・簡便性等の観点からニフレックからモビプレップに移行することのメリットが大きいと判断し、内科外来、外科外来、７Ｂ病棟、５Ｂ病棟からのオーダーについてはモビプレップへ移行した。

（７）イレウス管の挿入にあたり透視時間および手技時間短縮のため経鼻内視鏡を用いた挿入を導入した。

4　来年度の課題

（１）本年度に引き続き内視鏡検査、治療の増加が予想されることより、効率の良い運用が求められる。具体的には

・人員配備が可能な際は３室を利用し、並列での運用を行う。

・曜日ごとの検査・治療の件数のばらつきを抑えるよう週間スケジュールを作成する。

・緊急内視鏡検査が必要な際は迅速な伝達によりスタッフで情報を共有し、優先順位・効率を考慮したスケジュール変更を行う。

（２）内視鏡デバイスの種類が増加しており、不必要な物品の整理・定数管理の見直しを行いたい。

（３）コスト削減のための内視鏡デバイスの変更や現行物品の納入価格の交渉を NHS と協力して行う。

（４）内視鏡医療機器は専門性の高い複雑な医療機器であり、その管理や故障時の対応は医療機器に詳しい人材が行うほうがよいと考えられるが、現状は業者と看護師の間で行われているため管理体制を見直したい。　　（文責　鳥巣　勇一）

■褥瘡対策委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	津嶋　友央（皮膚科）	副委員長	花崎　久美子（６Ｂ病棟）
委員	平川　正彦（形成外科）	委員	田中　慶子（外来Ａ）
委員	後藤　光子（外来Ｄ）	委員	田島　眞弓（外来Ｄ）
委員	遠藤　喜美子（５Ｂ病棟）	委員	芳野　由規子（ＩＣＵ）
委員	松山　早登美（７Ａ病棟）	委員	若林　久美子（褥瘡対策専従）
委員	小俣　朋子（栄養科）	委員	大山　実希（栄養科）
委員	阿部　一仁（薬剤科）	事務局	伊藤　裕美子（医事課）
事務局	名切　孝介（医事課）		

2　開催回数

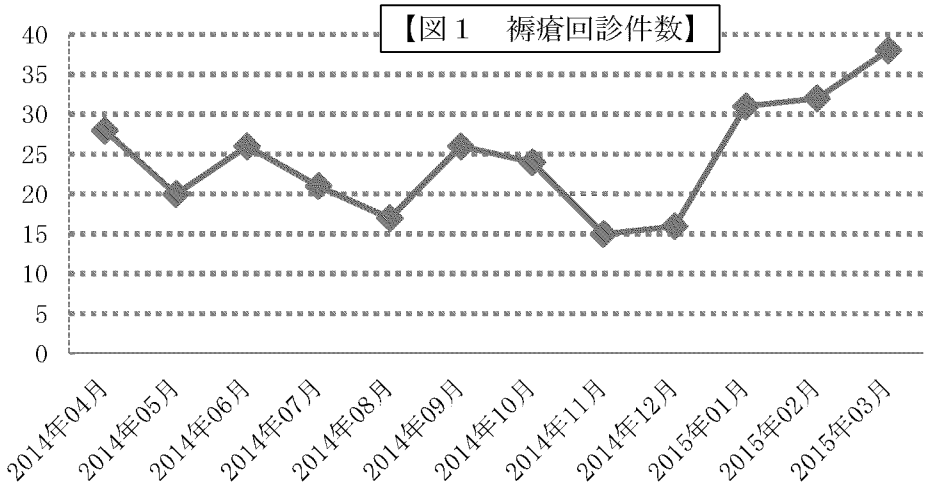
９回（毎月１回、第４火曜日、８月・１１月・１２月を除く）

3　平成 26 年度の取組実績

入院時にすでに褥瘡がある患者さん、および入院中に新たに褥瘡が発生した患者さんはすべて褥瘡チームが介入し、定期的に回診を行っている。回診は週に１回行っており、月ごとの回診件数を図１に示す。平均は 24.5 件／月。持ち込みの褥瘡の件数と入院中に新たに褥瘡が発生した件数を図２に示す。月ごとの褥瘡推定発生率(※)を図３に示す。平成 26 年度の年間平均値は、1.05％であり全国平均の 1.40％より低い。

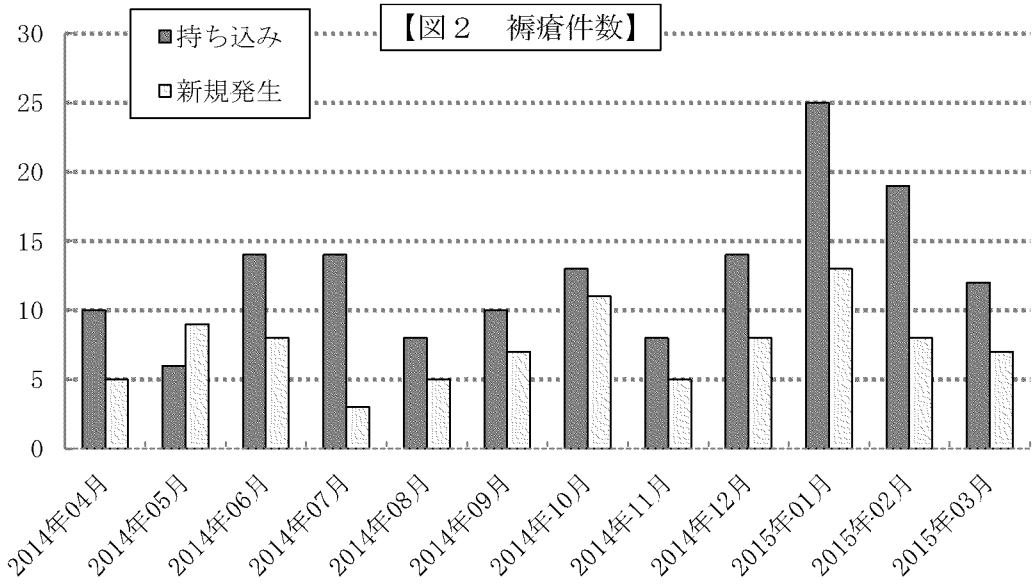
$$(※)\ \frac{(\text{調査日に褥瘡を保有する患者数} - \text{入院時すでに褥瘡を保有していた患者数})}{\text{調査日の施設入院患者数}\times 100}$$

【図１　褥瘡回診件数】

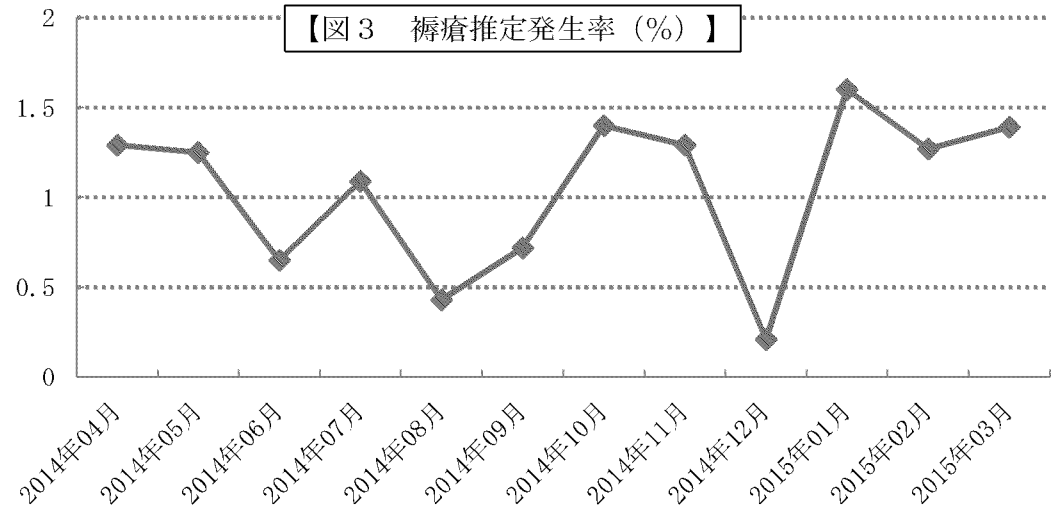


褥瘡ハイリスク患者ケア加算（１入院につき１回算定：500 点）は平成 26 年度で 2,340 件（月平均 195 件）算定した。

【図２　褥瘡件数】



【図３　褥瘡推定発生率（%）】



エアマットレスの運用基準を見直し、さらに有効に活用されるようになった。平成26年度のエアマットレスの稼働率は99.47%で、ほぼ空きがない状態であった。

平成 26 年 12 月 18 日に、リハビリテーション科の委員２名による勉強会を開催した。『ポジショニングと早期離床』をテーマとし、108 名の職員が参加した。

4　来年度の課題

体圧分散用具を有効に活用し、引き続き褥瘡発生ゼロを目指していきたい。また、エアマットレスやクッションの管理および更新を適切に行っていく。さらに、褥瘡カンファレンスや研修、勉強会の実施により、職員のスキルアップと知識の向上を図っていきたい。　（文責　津嶋　友央）

■クリニカルパス委員会

1　スタッフ

【委員会】

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	良元　和久（外科）	副委員長	森本　康江（５Ｂ病棟）
委員	矢田　大輔（産婦人科）	委員	加藤　努（整形外科）
委員	中野　真範（消化器内科）	委員	富永　光敏（循環器内科）
委員	井出　正俊（歯科口腔外科）	委員	柘植　範子（７Ｂ病棟）
委員	大滝　哲也（薬剤科）	委員	島田　英介（医事課）
事務局	島田　英介（医事課）	事務局	名切　孝介（医事課）

【クリニカルパス部会】

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	良元　和久（外科）	副部会長	柘植　範子（７Ｂ病棟）
副部会長	勝又　祐子（５Ａ病棟）	部員	他 25 名

【化学療法クリニカルパス部会】

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	良元　和久（外科）	副部会長	森本　康江（５Ｂ病棟）
部会員	12 名		

2　開催回数

【委員会】12 回（毎月１回、第１火曜日）

【クリニカルパス部会】12 回（毎月１回、第２火曜日）

【化学療法クリニカルパス部会】４回（４・５・６・２月、第４金曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

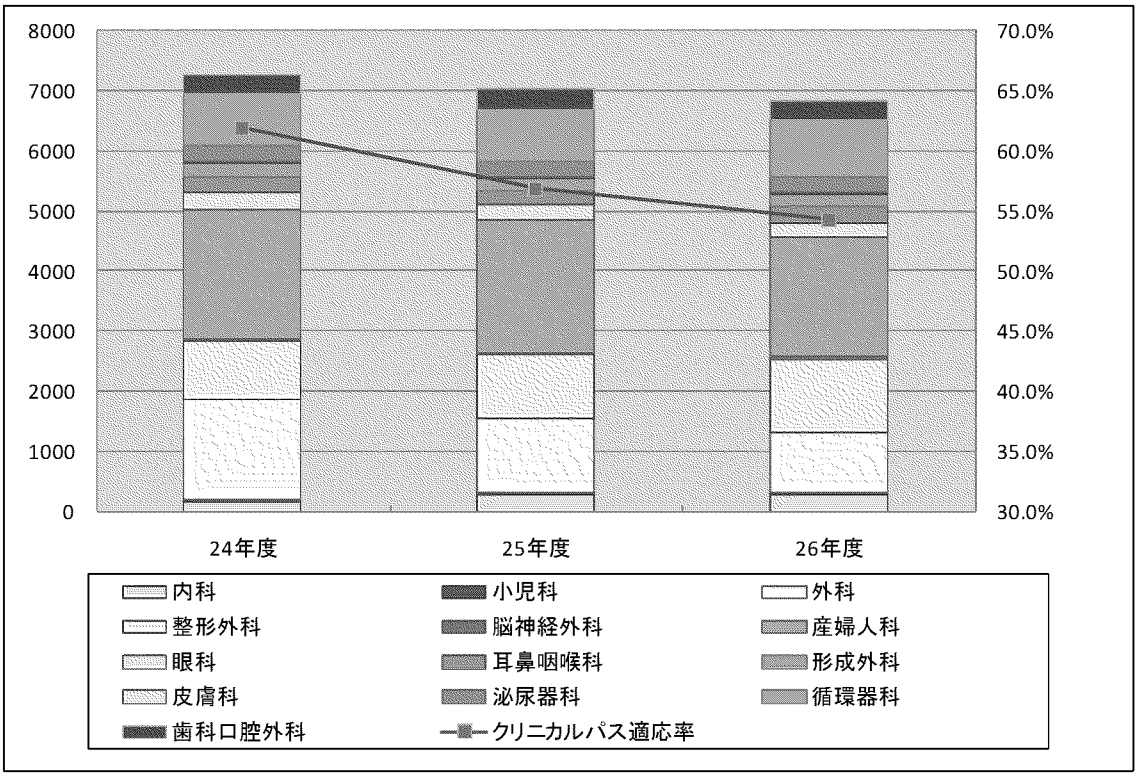
平成 26 年度は、５月 20 日、10 月 14 日、２月 10 日の３回にわたって、クリニカルパス大会を開催し、クリニカルパスの基準やクリニカルパス委員会の活動報告、バリアンス分析についての講演を行った。11 月には第 15 回日本クリニカルパス学会学術集会へ参加し、発表を行った。

平成 26 年度に適応したクリニカルパスは 6,850 件であり、24 年度から３年間の適応件数とその推移は表および図に示す通りである。また、５大癌の地域連携パスの作成や地域連携クリニカルパス部会の設置、患者パスアンケートの実施等を行った。

クリニカルパス適応件数

診療科	24年度	25年度	26年度	累計
内科	180	294	305	779
小児科	14	18	24	56
外科	1674	1244	988	3906
整形外科	980	1051	1220	3251
脳神経外科	22	34	47	103
産婦人科	2166	2223	1984	6373
眼科	268	236	241	745
耳鼻咽喉科	277	232	276	785
形成外科	215	230	222	667
皮膚科	34	9	17	60
泌尿器科	254	258	249	761
循環器科	881	856	943	2680
歯科口腔外科	296	351	334	981
総計	7261	7036	6850	21147
クリニカルパス適応率	61.9%	56.9%	54.3%	57.7%

【定義】適応率＝クリニカルパス適応件数／電子カルテ上入院件数



4　来年度の課題

・クリニカルパスの管理・整備体制を充実させる

・すべてのアウトカムを Basic Outcome Master に置き換える

・地域がん診療病院の指定に向け、地域連携パスの体制整備について協議を行う

（文責　良元　和久）

■病院機能改善委員会

1　スタッフ

（1）全体会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	遠藤　さよ子(副院長兼看護部長)	副委員長	森田　昌代（神経内科）
副委員長	伊藤　すみ子（副看護部長）	副委員長	藤本 浩二郎（診療技術部長）
委員	柏木　秀幸（副院長,外科）	委員★	後藤　博一（３Ｂ,泌尿器科）
委員	鈴木　康之(副院長兼産婦人科部長,４A,産婦人科)	委員	日馬　由貴（４Ｂ,小児科）
委員	重田　泰史（５A,耳鼻咽喉科）	委員★	良元　和久（５Ｂ,外科）
委員	山城　秀樹（６A,代謝一般内科）	委員★	宇田川　崇（６Ｂ,腎内科）
委員	阿部　裕一（７A,循環器内科）	委員	中野　真範（７Ｂ,消化器内科）
委員	田邊　登崇(3C,整形外科) ～10 月	委員	加藤　努（3C,整形外科）11 月～
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	笠井　健司(副院長兼腎内科部長, 腎内科)
委員	木村　哲夫（呼吸器内科）	委員	阪本　宏志（循環器内科）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	田中　圭（心臓血管外科）～６月
委員	織井　恒安（心臓血管外科）７月～	委員	瀬川　孝昭（小児科）
委員	梶本　徹也（外科）	委員	平川　正彦（形成外科）
委員	諸岡　暁(副院長兼脳神経外科部長, 脳神経外科)	委員	津嶋　友央（皮膚科）
委員	藤谷　暢子（眼科）	委員	松井　洋（放射線科）
委員	銅谷　実（麻酔科）	委員	遠藤　泰彦（病理科）
委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）	委員★	加藤　寛史（薬剤科）
委員	西田　英明（臨床工学科）	委員★	菅原　和仁（中央放射線科）
委員★	渡邉　広明（臨床検査科）	委員	小俣　朋子（栄養科）
委員	植松　和子（集中治療室）	委員	今野　美枝子（手術室）
委員	勝山　弘子（３Ｂ病棟）	委員	水野　博代（４Ａ病棟）
委員	高橋　ハマ子（４Ｂ病棟）	委員	勝又　千壽子（５Ａ病棟）
委員	森本　康江（５Ｂ病棟）	委員★	大塚　君子（６Ａ病棟）
委員	花﨑　久美子（６Ｂ病棟）	委員	小林　由美（７Ａ病棟）
委員	高井　みさ子（７Ｂ病棟）	委員	大石　悦子（３Ｃ病棟）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	佐野　まり子（救急外来）
委員	齋藤　幸子(医事課(地域連携室))	委員	田中　稔（医療安全対策室）
委員★	田中　慶子（外来Ａ）	委員★	白戸　幸子（集中治療室）
委員★	中村　三千代（５Ａ病棟）	委員★	杉本　祐介（救急外来）
委員★	笹木　一美（４Ａ病棟）	委員★	山中　祐子（６Ｂ病棟）
委員★	戸塚　美晴（７Ｂ病棟）	委員★	鈴木　裕子（３Ｃ病棟）

委員★	中川　貴裕（病院総務課）	委員	玉舟　正弥（病院総務課）
委員★	寺田　和子（医事課）	事務局	小林　あゆ美（病院経営課）

（２）定例会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	副委員長	森田　昌代（神経内科）
副委員長	伊藤　すみ子（副看護部長）	副委員長	藤本 浩二郎（診療技術部長）
委員	１７名（★は定例会委員を兼務）		

２　開催回数

（１）全体会：０回

（２）定例会：12 回（毎月１回、第３火曜日）

３　平成 26 年度の取組実績

（１）待ち時間集計報告（毎月）

（２）病院機能評価「期中の確認」に係る取り組みの進捗情況管理

（３）職員満足度調査の実施（７月７日～８月８日）

（４）患者さんアンケート調査の実施（９月 22 日、24～26 日）

（５）チーム医療評価の実施

（６）中央図書館より図書の譲受

（７）基本スケジュールの裏面活用

（８）富士市立中央病院勤務医の負担軽減に資する計画、看護師の負担軽減及び処遇の改善計画の改正

（９）部署別年度目標の管理

(10) 掲示物に関する注意点の一部改正

(11) 携帯電話使用制限の緩和

４　来年度の課題

平成 27 年度は、病院機能評価機能種別版評価項目３rdG：Ver. 1.0（一般病院２）の認定開始から３年目にあたり期中の確認が実施されるため、その報告に係る活動を重点的に行う。

また、患者さんアンケート調査及び職員満足度調査を行い、院内全般の課題及び各部門で解決が困難な課題を把握し、改善策の検討を行う予定である。積極的に改善に取り組み、さらなる医療の質の向上に努めたい。

（文責　遠藤　さよ子）

■ＮＳＴ委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	宇田川　崇（腎内科）	副委員長	勝又　千壽子（５Ａ病棟）
委員	津嶋　友央（皮膚科）	委員	重田　泰史（耳鼻咽喉科）
委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）	委員	武井　淳（脳神経外科）
委員	兼平　卓（外科）	委員	佐野　僚子（臨床検査科）
委員	三澤　延司（薬剤科）	委員	木元　慎一郎（薬剤科）
委員	阿部　一仁（薬剤科）	委員	小俣　朋子（栄養科）
委員	大山　実希（栄養科）	委員	幾嶋　邦人（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科）
委員	梅原　健人（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科）	委員	長橋　あゆみ（医療技術科）
委員	加藤　美奈子（手術室）	委員	秋山　ゆかり（３Ｂ病棟）
委員	野澤　里美（３Ｃ病棟）	委員	小野田　智恵子（４Ａ病棟）
委員	遠藤　里花（６Ａ病棟）	委員	柘植　範子（７Ｂ病棟）
委員	井出　悦子（５Ａ病棟）	委員	若林　久美子（褥瘡対策専従）
委員	篠原　早和子（６Ｂ病棟）	ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	平川　正彦（形成外科）
事務局	伊藤　裕美子（医事課）	事務局	名切　孝介（医事課）

2　開催回数

11回（毎月１回、第３木曜日。８月は除く）

3　平成26年度の取組実績

①チーム活動

栄養評価・病院食改善チーム、摂食嚥下口腔ケアチーム、褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会）の３チームが日々活動しており、月に１度の委員会において、チーム活動報告、情報交換及び症例検討等を行っている。

〔栄養評価・病院食改善チーム〕

・毎週火曜日に栄養科でのカンファレンス及び病棟回診を行っている。

平成26年度NST回診　延べ516人　月平均43人

〔摂食嚥下口腔ケアチーム〕

・毎月第２木曜日、第４水曜日に回診を行っている。月に１度勉強会を行っている。

平成26年度回診　延べ112人　月平均9.3人

〔褥瘡対策チーム（褥瘡対策委員会)〕

※褥瘡対策委員会の頁で報告

②全職員対象のNST勉強会の開催

開催日	内容	講師	参加者
H26.6.3	栄養評価の方法について	腎臓内科 宇田川　崇医師	84名
H26.7.11	摂食嚥下の基礎と リハビリテーション	リハビリテーション科 幾島　邦人上席言語聴覚士	86名
H26.9.10	褥瘡評価について	皮膚科部長 津嶋　友央医師	124名
H26.10.8	経腸栄養剤と栄養管理	アボットジャパン 川口　順久様	87名
H26.11.5	機能性食品の不思議	代謝一般内科 蝶野　慈医師	63名
H26.12.3	サルコペニアとリハビリ テーション栄養	静岡市立清水病院 坂元　隆一医師	107名
H27.2.4	糖尿病における食事療法	代謝一般内科 瀧　謙太郎医師	53名
H27.3.11	慢性腎臓病における 食事とライフスタイル	腎臓内科 笠井　健司医師	57名

③研修会への参加

平成26年9月13日(土)・14日(日)に開催された日本静脈経腸栄養学会　2014年度第２回 東海地区TNT研修会に２名の医師が参加し、栄養サポートチーム加算に係る専門資格を取得した。

4　来年度の課題

院内における「NST」の役割や重要性を更に広めるために、引き続きNST勉強会の開催を行っていきたい。また、各チーム活動の充実を図り、症例検討やカンファレンス等を積極的に行うとともに、NST専門療法士資格取得者を増員していきたい。

（文責　坪井　一人）

■輸血療法委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	藤井　常宏（代謝一般内科）	副委員長(※)	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	織井　恒安（心臓血管外科）	委員	鳥巣　勇一（消化器内科）
委員	銅谷　実（麻酔科）	委員	北村　博顕（外科）
委員	加藤　努（整形外科）	委員	鈴木　英訓（泌尿器科）
委員	矢田　大輔（産婦人科）	委員	武井　淳（脳神経外科）
委員	大塚　君子（６Ａ病棟）	委員	渡辺　裕子（５Ｂ病棟）
委員	松田　祐平（薬剤科）	委員	名切　孝介（医事課）
委員	長峰　誠一郎（臨床検査科）	外部委員	佐野　龍将（日本赤十字社）

(※)事務局　高橋　昌子（臨床検査科）

2　開催回数

６回（隔月、第３火曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

- 血液製剤の使用量、輸血後感染症検査実施率、自己血の実績を報告
- 輸血療法に関する最新情報の周知
- 輸血業務に関連するインシデントの解析と改善方法の検討
- マニュアルの改訂
- 輸血後感染症の詳細な集計結果を報告
- 災害時マニュアルの改訂
- 看護部研修の一環として血液バックにルートをセットする講習を実施
- 病棟配置アルブミン製剤の在庫削減
- 輸血拒否患者に対する対応を決定し病院ウェブサイトに公開
- 輸血依存患者に対する除鉄療法の状況を調査

血液製剤使用量と廃棄率の推移

種別	単位	24 年度	25 年度	26 年度
赤血球製剤	単位	5,845	6,104	6,053
凍結血漿	単位	1,198	1,618	1,568
血小板製剤	単位	7,170	6,725	9,600
アルブミン	g	23,988	27,963	27,000
廃棄率	%	0.94	0.40	0.43

平成 26 年度
F/M 比=0.26
A/M 比=1.49
※輸血管理料Ⅰ請求条件：F/M 0.5 未満 A/M 2.0 未満

4　来年度の課題

①血液製剤の適正使用推進（前年度に引き続き廃棄率 0.5%未満を目指す）

②医師への正しい業務手順の周知

③輸入アルブミン製剤の国内製剤への切り替えを検討

④次期電子カルテシステムでの診療支援の検討

（文責　藤井　常宏）

■医療安全管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	田中　稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
委員	柏木　秀幸（副院長）	委員	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）	委員	落合　敏明（薬剤科）
委員	西田　英明（臨床工学科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	高橋　ハマ子（４Ｂ病棟）	委員	井出　宣孝（中央放射線科）
委員	高橋　昌子（臨床検査科）	委員	白川　安俊（病院総務課）
委員	福良　孝生（医事課）	事務局	秋山　英希（病院総務課）

リスクマネジメント部会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	田中　稔（副看護部長兼医療安全対策室長）	副部会長	遠藤　泰彦（病理科）
部員	11名		

医薬品部会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	落合　敏明（薬剤科）	部員	７名

医療機器部会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
部会長	西田　英明（臨床工学科）	副部会長	池谷　幸一（中央放射線科）
部員	９名		

医薬品安全管理責任者　　落合　敏明（薬剤科）
医療機器安全管理責任者　　西田　英明（臨床工学科）

2　開催回数

（１）医療安全管理委員会　　12回（毎月１回、最終金曜日）
（２）リスクマネジメント部会　　12回（毎月１回、第３木曜日）
・薬剤関連グループ　　12回（毎月１回、第２水曜日）
・転倒転落グループ　　12回（毎月１回、第２火曜日）
・５Ｓグループ　　12回（毎月１回、第１水曜日）
（３）医薬品部会　　５回
（４）医療機器部会　　３回

3　平成26年度の取組実績

（１）医療安全カンファレンス
・オカレンス報告事例について　　１回開催

・宗教的輸血拒否に関する対応方針について　　３回開催

病院の方針に基づき、輸血拒否患者に対する職員の対応を検討した。管理会議で承認後、職員に周知した。

・予期せぬ死亡事例について　　１回開催

・緊急手術の医療安全について　　２回開催

（２）リスクマネジメント部会

・医療安全に関する意識調査アンケート実施　　770 回答

・医療安全推進週間の実施（期間　平成 26 年 11 月 23 日～29 日）

標語「フルネーム　名乗って確認　見て確認」

・医療安全研修

①テーマ：「安全を守るコミュニケーション　～情報共有の重要性～」

平成 26 年６月 23 日　参加人数 161 名

②テーマ：「報告・連絡のためのコミュニケーションツール　～SBAR～」

平成 27 年２月 20 日　参加人数 139 名

（３）医療機器部会

・医療機器安全管理マニュアルの改訂作業（５回）

・医療機器安全使用のための講習会（６回）

①人工呼吸器（２回）

②輸液ポンプ

③胸部写真の見方

④肺機能検査・血液ガスの見方

⑤肺理学療法について

（４）医薬品部会

・医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂

・「薬の事故とコミュニケーション」研修会　　２回開催

・「知っておきたい注射薬の取り扱い方」研修会　　２回開催

４　来年度の課題

更なる医療の質と安全の向上を図るため、医療安全カンファレンスで具体的なマニュアルを作成し、管理会議で承認を得て周知していく。

また、医療安全対策室、委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会、医薬品部会、医療機器部会の事業をサポートしていく。

（文責　諸岡　暁）

■緩和ケア委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	梶本　徹也（外科）	副委員長	大石　悦子（３Ｃ病棟）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	入村　雄也（外科）
委員	川口　敬（薬剤科）	委員	中村　公美（リハビリテーション科）
委員	渡邉　裕子（５Ｂ病棟）	委員	金森　清美（６Ａ病棟）
委員	西家　裕子（外来Ｂ）	委員	村松　由貴子（外来Ｂ）
委員	村松　和歩（在宅医療支援グループ）	委員	江村　宏子（医事課（地域連携室））
事務局	岩垣　哲也（医事課（地域連携室））		

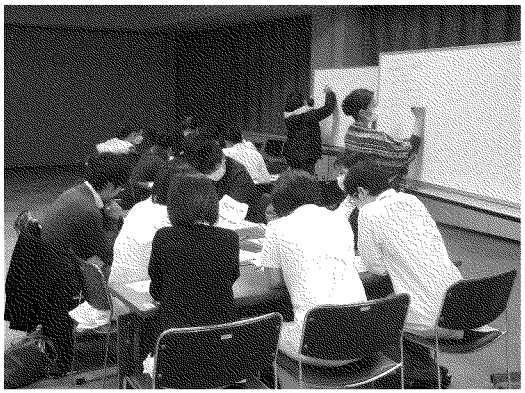
2　開催回数　12回（毎月１回、第２木曜日）

3　平成26年度の取組実績

定例会による緩和ケア関連の検討や毎週実施する病棟回診に委員会スタッフ全員で取り組んだ。また、「地域がん診療病院」の指定に向けて「緩和ケア外来」を開設し、緩和ケアの地域連携パスを作成した。その運用について富士市医師会に対して説明の場を設け、理解と協力をいただいた。

院内への啓発と全スタッフのスキルアップ及び共通認識を持つことを目的として、PEACE（日本緩和医療学会・緩和ケアプログラム）を用いた勉強会を定期的に開催し、多くのスタッフに参加していただくことができた。

緩和ケアにおいて院外の医療従事者の参加も得ながら、より一層の連携に繋がればと考えている。



〔緩和ケア勉強会・グループワークの様子〕

4　来年度の課題

・病棟回診及び勉強会の充実
・緩和ケア講演会の開催
・必要な薬剤、医療器具の導入
・多職種の緩和ケアチームへの参加推進

（文責　梶本　徹也）

■広報委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	杉沢　利次（事務部長）	副委員長	津嶋　友央（皮膚科）～８月
副委員長	平川　正彦（形成外科）９月～	委員	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）
委員	藤谷　暢子（眼科）	委員	内野　有子（臨床検査科）
委員	清水　則雄（中央放射線科）	委員	竹川　圭亮（リハビリテーション科）
委員	松村　加奈（薬剤科）	委員	北島　美鈴（外来Ａ）
委員	中村　三千代（５Ａ病棟）	委員	木ノ内　宏治（病院経営課）
委員	村松　真己子（病院総務課）	委員	前嶋　健二（医事課）
事務局	木内　啓人（病院経営課）		

2　開催回数

４回（６月、９月、12 月、３月）

3　平成 26 年度の取組実績

①広報誌部会の開催及び病院だよりの発行

当院では平成 20 年７月から病院だよりの発行を行っている。病院だよりの発行回数は年４回（４月、７月、10 月、１月）、発行部数は 92,000 部で富士市内の全世帯に配布している。病院だよりの編集のために広報誌部会を開催し、当院の診療情報や健康及び予防に関する情報などを広く市民の皆さまや患者さんに伝える為、掲載記事の選定や内容について議論を行った。

②ウェブサイト部会の開催及びウェブサイトの管理

情報量の多さや速報性といったウェブサイトのメリットを活かした情報発信を行うため、ウェブサイト部会を開催し内容や構成について検討した。トップページバナーを用いた記事の充実に力を入れ、診療部の実績紹介記事を中心に３か月に１度更新を行った。また、モバイル端末による閲覧率上昇に対応するためシステムの改修を行い、平成 26 年 10 月よりスマートフォン対応サイトの提供を開始した。

4　来年度の課題

広報誌では、急性期病院としての役割を市民の皆さまに理解していただけるように記事内容を検討していく。ウェブサイトでは、引き続き診療実績の紹介記事を積極的に掲載するとともに、臨床研修センターや看護師ナラティブサイトを充実させるなど、医療関係者を意識した情報掲載に取り組んでいく。

（文責　杉沢　利次）

■食堂・売店検討委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	木村　哲夫（呼吸器内科）	副委員長	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）
委員	加藤　才子（臨床検査科）	委員	杉山　伸一（中央放射線科）
委員	柴田　貴子（薬剤科）	委員	大山　実希（栄養科）
委員	木内　啓人（病院経営課）	委員	白川　安俊（病院総務課）
委員	池邊　貴子（売店職員）	委員	岡野　よし子（食堂職員）
事務局	中川　貴裕（病院総務課）	事務局	塩澤　忠生（病院総務課）

2　開催回数

3回

3　平成26年度の取組実績

・食堂および売店メニューの検討

・食堂および売店の事業計画を審議し翌年度1年間の継続を承認

4　来年度の課題

平成27年度も食堂・売店の運営や改善について検討を行い、利用者に良質なサービスを提供する施設となるよう取組んでいく。

（文責　木村　哲夫）

■経営改革推進委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	杉沢　利次（事務部長）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	重田　泰史（耳鼻咽喉科）
委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）	委員	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	井出　宣孝（中央放射線科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	植松　和子（集中治療室）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
事務局	春山　辰巳（病院経営課）		

2　開催回数

7回（9月以降　第4水曜日）

3　平成26年度の取組実績

①地域がん診療病院の指定に向けて

地域がん診療病院指定要件の未該当項目解消のため、説明会の開催、視察、県とのヒアリングを行った。

また、平成26年7月に緩和ケア外来、がん患者サロンを開設するとともに、1階飲食スペースに患者図書コーナーを設置した。平成27年1月よりセカンドオピニオン外来を開始するなどの診療体制の整備を行った。

②第一次中期経営改善計画の評価について

関係する委員会または所属から提出された評価について検証を行い、全体評価として「ほぼ達成」されたという評価をした。また、ウェブサイトにて公表を行った。

③単年度事業計画書の作成について

平成26年度からの5カ年計画として策定した第二次中期経営改善計画を実効性のあるものにするため、関係する委員会または所属に作成を依頼し、具体的な事業内容を取りまとめた単年度事業計画書を作成し、院内周知した。

4　来年度の課題

平成26年度事業計画の検証及び平成27年度事業計画の各事業の進行管理を行う。

また、院内の関係所属、委員会と協力しながら、「地域がん診療病院の指定」、「地域医療支援病院の承認」を目指していく。

（文責　柏木　秀幸）

■化学療法委員会

1 スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	藤井　常宏（代謝一般内科）	副委員長	後藤　博一（泌尿器科）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	良元　和久（外科）
委員	兼平　卓（外科）	委員	矢田　大輔（産婦人科）
委員	川口　敬（薬剤科）	委員	阿部　一仁（薬剤科）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	西家　裕子（外来Ｂ）
委員	遠藤　里花（６Ａ病棟）	委員	村松　由貴子（在宅療養支援グループ）
委員	滝澤　佐織（７Ｂ病棟）	委員	村田　弘子（３Ｂ病棟）
委員	勝又　祐子（５Ａ病棟）	事務局	島田　英介（医事課）

2　開催回数

17 回（毎月１回、第４火曜日）　定期開催　11 回　臨時開催　６回

3　平成 26 年度の取組実績

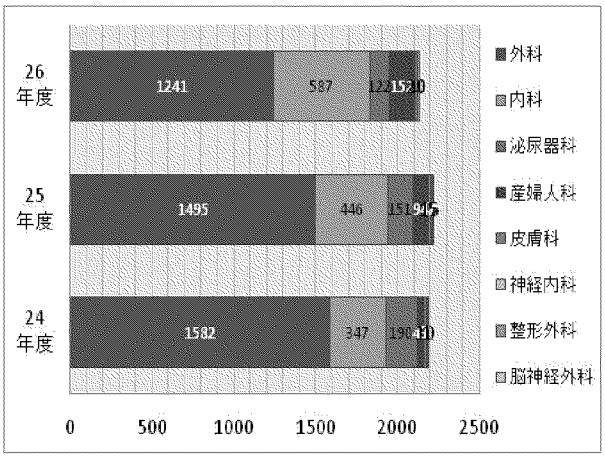
化学療法委員会では年間を通して新規レジメンの検討・承認、レジメンの見直し、通院治療室運用についての検討、化学療法クリニカルパス作成のためのクリニカルパス委員会との連携を行った。新規レジメンは今年度 30 種類の検討・承認を行った。化学療法運用検討ではサビーンの取り扱いについて、各病棟、外来に設置されている「抗がん剤取り扱いマニュアル」を踏襲した委員会管理の「化学療法マニュアル」の整備を行った。

4　来年度の課題

地域がん診療病院の要件となる拠点病院と連携したレジメン審査、通院治療室の副作用管理等の薬剤師の関わり方、内服抗がん剤と分子標的薬への関与について検討を行う。

科別レジメン適用件数

診療科	24 年度	25 年度	26 年度
外科	1,582	1,495	1,241
内科	347	446	587
泌尿器科	190	151	122
産婦人科	43	94	152
皮膚科	10	16	20
神経内科	7	7	
整形外科			10
脳神経外科	1	5	



（文責　藤井　常宏）

■診療材料検討委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	副委員長	白川　安俊（病院総務課）
委員	山城　秀樹（代謝一般内科）	委員	阪本　宏志（循環器内科）
委員	入村　雄也（外科）	委員	坂本　佳那子（整形外科）
委員	傳田　良亮（整形外科）	委員	村山　雄輔（整形外科）
委員	井出　正俊（歯科口腔外科）	委員	重田　泰史（耳鼻咽喉科）
委員	大滝　哲也（薬剤科）	委員	鍋島　雄和（中央放射線科）
委員	山元　義雄（臨床工学科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	今野　美枝子（手術室）	委員	小松崎　敏子（外来Ｃ）
委員	金子　弘之（病院経営課）	委員	前嶋　健二（医事課）
委員	中川　貴裕（病院総務課）	事務局	塩澤　忠生（病院総務課）
事務局	仲澤　実加（病院総務課）		

2　開催回数

８回（毎月１回、第２月曜日。但し、議題のない月は翌月に開催）

3　平成 26 年度の取組実績

① 新規診療材料等の採択に関する検討

・新規採用　53 件（規格違い商品含む）

② SPD 委託業者により価格削減提案された商品採用の承認　等

・切替提案商品（規格違い含む）　51 件、現行品削減件数　９件

・年間削減試算額　955 万円

4　来年度の課題

引続き、新規採用診療材料等の適正かつ効率的な購入の推進を図っていく。

（文責　鈴木　康之）

■ＩＣＵ運営委員会

１　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	阪本　宏志（循環器内科）	副委員長	野田　靖人（脳神経外科）
副委員長	植松　和子（集中治療室）	委員	田中　圭（心臓血管外科）
委員	宇田川　崇（腎内科）	委員	良元　和久（外科）
委員	佐野　達哉（臨床工学科）	委員	白戸　幸子（集中治療室）
委員	渡邉　かおる（集中治療室）	委員	芳野　由規子（集中治療室）
事務局	島田　英介（医事課）	事務局	名切　孝介（医事課）

２　開催回数

７回（２ヶ月１回、第３月曜日）

３　平成 26 年度の取組実績

（１）ICU の運営

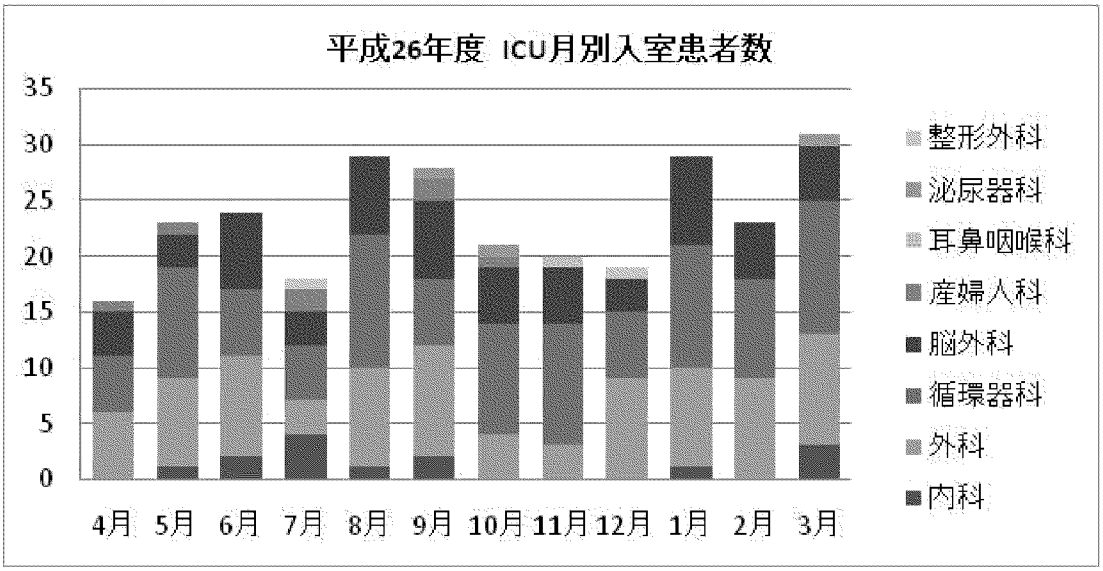
ICU の利用をしやすくするため、入室申込の様式の簡略化と実施。退室時の医師付き添いについての検討、医療機器の更新申請（血液ガス分析装置、血液浄化装置、心電図計、IABP）について、リハビリテーション科の介入、エコーの機器管理、CHDF トラブル時の対応について検討を行った。

（２）統計報告

【表１】ICU 科別月別入室患者数、【表２】ICU における急性血液浄化件数、
【表３】ICU における IABP、PCPS 件数

【表１】ICU 科別月別入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均入室日数
内科		1	2	4	1	2				1		3	14	3.4
外科	6	8	9	3	9	10	4	3	9	9	9	10	89	3.4
循環器科	5	10	6	5	12	6	10	11	6	11	9	12	103	5.2
脳外科	4	3	7	3	7	7	5	5	3	8	5	5	62	5.2
産婦人科	1	1		2		2	1						7	8.0
耳鼻咽喉科								1					1	4.0
泌尿器科						1	1					1	2	2.5
整形外科				1					1				2	2.0
月合計	16	23	24	18	29	27	21	20	19	29	23	31	280	4.6



単位:人

【表２】ICU における急性血液浄化件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ＣＨＤＦ	1	3	2	1	3	2	5	2	7	2	0	2	30
ＰＭＸ	2	2	1	0	2	0	0	0	0	3	1	1	12
ＰＥ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6	7
月合計	3	5	3	1	5	2	5	2	8	5	1	9	49

【表３】ICU における IABP、PCPS 件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ＩＡＢＰ	3	3	2	3	4	1	4	3	2	2	2	5	34
ＰＣＰＳ	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	6
月合計	4	3	2	3	4	1	4	4	3	3	2	7	40

４　来年度の課題

６床稼働のための準備、運用検討。

（文責　阪本　宏志）

■医療事故調査委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）	委員	内科系医師（その都度指名）
委員	外科系医師（その都度指名）	委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	白川　安俊（病院総務課）
委員	福良　孝生（医事課）	委員	田中　稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
事務局	玉舟　正弥（病院総務課）		

2　開催回数

4回（案件により随時開催）

3　平成26年度の取組実績

医療事故についての具体的な調査検討を目的とした委員会を4回開催し、4件の症例についての検討を行い、それぞれの関係部署に体制の見直しを要請した。

4　来年度の課題

より積極的に医療事故の検証に取り組み、一定程度以上の医療事故については、委員会で調査・検討を必須とする。オカレンスレポートからも事例を選んでいくこととする。

（文責　諸岡　暁）

■医療事故対策委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	小野寺　昭一（院長）	副委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）	委員	杉沢　利次（事務部長）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	田中　稔（副看護部長兼医療安全対策室長）
事務局	玉舟　正弥（病院総務課）		

2　開催回数

なし（案件により随時開催）

3　平成 26 年度の取組実績

医療事故対策委員会は、緊急対応を必要とする医療事故が発生した場合、その事故に係わる当院の方針を決定することを目的として、平成 21 年 9 月に設置された。

平成 26 年度は、委員会を開催すべき医療事故はなかった。

4　来年度の課題

委員会の開催を必要とする医療事故が万が一発生した場合は、速やかに委員会を開催し、事実関係に基づき最善の方針を決定していく。

（文責　小野寺　昭一）

■病院情報システム運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	良元　和久（外科）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	田邊　登崇（整形外科）～11 月
委員	加藤　努（整形外科）12 月～	委員	津嶋　友央（皮膚科）
委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）	委員	加藤　寛史（薬剤科）
委員	鈴木　英昭（臨床検査科）	委員	清水　則雄（中央放射線科）
委員	大山　実希（栄養科）	委員	中村　公美（リハビリテーション科）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	勝又　千壽子（５Ａ病棟）
委員	佐野　まり子（外来Ｃ）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	前嶋　健二（医事課）	事務局	小林　桂（病院経営課）

2　開催回数

12 回（月１回、第１月曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

・事務系端末の配布の検討及び実施（４月、８月～10 月）
・事務系ネットワーク LAN 配線工事及び機材交換の実施（７月～９月）
・生理検査システムの容量確保の検討（11 月、12 月）
・電子カルテシステム更新の検討（１月）
・院内共有フォルダの整理の検討及び実施（１月）
・病理レポート未読を減らすための病理システム改修の検討（２月）
・医師及び看護師の業務削減のための薬剤システムの改修の検討及び実施（３月）

4　来年度の課題

今年度に引き続き、端末及びネットワーク機材の更新を行い、院内の事務系環境整備に努めていく。

次期電子カルテシステム更新については、これまで電子カルテシステムを使用した中での評価等も含めて調査・検討を行い、機器更新に合わせて仕様を決めていく。また、基幹システムと各部門システムとの連携部分の改善にも努めていく。

（文責　柏木　秀幸）

■血液浄化・透析機器安全管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	宇田川　崇（腎内科）
委員	植松　和子（集中治療室）	委員	花崎　久美子（６Ｂ病棟）
委員	田中　慶子（外来Ａ）	委員	山中　祐子（６Ｂ病棟）
委員	佐野　達哉（臨床工学科）		
事務局	前嶋　健二（医事課）	事務局	名切　孝介（医事課）

2　開催回数

12 回（毎月１回、第３水曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

・毎月の委員会において、透析室水質管理表の報告（表１）、急性血液浄化及び維持透析等の実施状況の確認を行った。
・透析機器を含む各種医療機器の購入・更新・保守について適宜検討を行った。
・災害時における拠点施設としての役割や維持透析患者への対応について確認し、地震防災対策行動マニュアルの修正を提案した。
・在宅血液透析を導入する場合の課題事項の確認を行った。

血液透析施行患者数	266 人	（血液透析施行件数 2,603 件）
腹膜透析診療患者数（年度末）	17 人	
うち血液透析＋腹膜透析併用療法患者数	４人	
維持透析導入患者数	67 人	（血液透析 64 人、腹膜透析３人）
急性血液浄化施行患者数	47 人	(94 件)
うち持続血液濾過透析	25 人	(30 件)
エンドトキシン吸着療法	８人	(12 件)
二重濾過血漿交換	３人	(15 件)
血漿交換	７人	(24 件)
腹水濾過濃縮再静注法	３人	(３件)
白血球除去療法	１人	(10 件)

表１－透析室水質管理表（平成 26 年度）

	RO		セントラル	
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)
4 月	0.00231	0	0.00121	0
5 月	0.00342	0	0.00098	0
6 月	0.00346	0	0.00212	0
7 月	0.00274	0	0.00088	0
8 月	0.00332	0	0.00112	0
9 月	0.00421	0	0.00178	0
10 月	0.00341	0	0.00157	0
11 月	0.00365	0	0.00097	0
12 月	0.00294	0	0.00147	0
1 月	0.00224	0	0.00123	0
2 月	0.00345	0	0.00098	0
3 月	0.00341	0	0.00157	0

	コンソール		コンソール		
	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	ET 活性値 (EU/ml)	生菌数 (CFU/ml)	コンソール No.
4 月	0.00070	0	0.00070	0	③　④
5 月	0.00062	0	0.00062	0	⑤　⑥
6 月	0.00066	0	0.00066	0	⑦　⑧
7 月	0.00062	0	0.00062	0	⑨　⑩
8 月	0.00063	0	0.00063	0	①　②
9 月	0.00066	0	0.00066	0	③　④
10 月	0.00052	0	0.00052	0	⑤　⑥
11 月	0.00062	0	0.00062	0	⑦　⑧
12 月	0.00069	0	0.00069	0	⑨　⑩
1 月	0.00066	0	0.00066	0	①　②
2 月	0.00055	0	0.00055	0	③　④
3 月	0.00052	0	0.00052	0	⑤　⑥

４　来年度の課題

・老朽化の進んでいる機器、耐用年数超えの機器の更新を行っていく。

（文責　笠井　健司）

■周産期医療機器安全管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	副委員長	瀬川　孝昭（小児科）
委員	水野　博代（４Ａ病棟）	委員	高橋　ハマ子（４Ｂ病棟）
委員	西田　英明（臨床工学科）	事務局	臨床工学科

2　開催回数

２回

3　平成 26 年度の取組実績

１）周産期に係わる医療機器（主に保育器、分娩監視装置）の更新計画に基づき医療機器の申請を行った。

２）周産期に係わる医療機器の保守点検実施及び保守費用申請。

３）閉鎖式保育器台数見直し（12 台保有→11 台へ変更：10 台を４Ｂ病棟、１台は４Ａ病棟にバックアップとして保管）を行った。

4　来年度の課題

１）平成 24 年度に周産期医療機器管理委員会で策定した「機器更新計画に基づいた機器更新」が推進できるよう、委員会から意見を上申したい。

２）周産期医療の安全な提供ができるように、委員会活動を行っていきたい。

（文責　鈴木　康之）

■地域連携運営委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鈴木　康之(副院長兼産婦人科部長)	副委員長	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	井出　宣孝（中央放射線科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	伊東　禎浩（病院経営課）	委員	福良　孝生（医事課）
委員	齋藤　幸子（医事課（地域連携室））		
事務局	岩垣　哲也（医事課（地域連携室））	事務局	小林　真紀子（医事課（地域連携室））

2　開催回数

12回（毎月１回、第３火曜日）

3　平成26年度の取組実績

・前年度に引き続き、地域医療支援病院承認を目指した体制作りのための「地域医療連携システム実施要領」に基づき、医師会との具体的な連携を強めた。
・富士市医師会と「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」を共同開催し、情報交換や症例検討を行った。
・病診連携をより推進する手段のひとつとして医師の顔写真入り紹介冊子を刊行し、開業医のみなさまに配付した。
・「地域がん診療病院」の承認を目指し、がん患者サロンの定期開催やがん患者図書コーナーを設置し、患者への情報提供を図った。また、相談員はがん相談のための資格を取得し、がん相談センターを開設した。
・返書システム「Human Bridge」による返書管理により返書率の向上を図った。
・ふじのくにバーチャルメガホスピタル「ふじのくにねっと」について医師会にPRし、参照施設の登録と開示件数、参照件数の増加を図った。
・病床機能分化や地域医療ビジョンについて職員研修会を開催した。

4　来年度の課題

・「富士市立中央病院地域医療連携施設運営委員会」の年間２回の開催
・「精神科医療連携連絡会議」の開催
・「地域医療支援病院」承認に向けた紹介率及び逆紹介率の基準達成と維持
・紹介患者予約枠の稼働率の上昇
・「地域がん診療病院」の指定取得
・がん相談支援センター機能の充実と強化
・地域肝疾患診療拠点病院としてのネットワークづくり
・「医師紹介冊子」（平成27年度版）の発行
・「連携安心カード」・「ふじのくにねっと」の普及啓発と運用

（文責　鈴木　康之）

■患者サービス向上委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	遠藤　さよ子(副院長兼看護部長)	副委員長	田邊　登崇（整形外科）～10月
副委員長	加藤　努（整形外科）11月～	委員	秋山　直枝（小児科）
委員	遠藤　聡（臨床検査科）	委員	三澤　延司（薬剤科）
委員	藤澤　睦子（副看護部長）	委員	水野　博代（４Ａ病棟）
委員	後藤　光子（外来Ｄ）	委員	鈴木　早苗（外来Ｂ）
委員	小澤　花子（３Ｃ病棟）	委員	羽二生　朱美（４Ｂ病棟）
委員	白井　さつき（６Ｂ病棟）	委員	帯津　百枝（病院総務課）
委員	伊藤　裕美子（医事課）	事務局	小林　あゆ美（病院経営課）

2　開催回数

12回（毎月１回、第４木曜日）

3　平成26年度の取組実績

（１）毎月開催される管理会議と院内連絡会議におけるお礼状の報告

（２）あいさつ運動（５月、９月、１月の各月３日間）

（３）院内掲示物巡回（６月26日）

（４）正面玄関南側花壇における花苗の植え替え（６月と11月に富士市花の会の協力を得て実施）

（５）正面玄関前広場花壇における花苗の植え替え（６月、11月）

（６）院内ギャラリーの運営

展示月	展示会名	団体名	出展作品
４月	第8回富士山百景写真コンテスト受賞作品展	―	写真
５月	和紙ちぎり絵展	和紙絵同好会	和紙ちぎり絵
６月	猫日和	菅野　祐樹	アクリル画
７月	押花展	押花グループ葵	押花絵
８月	色鉛筆画同好会作品展示会	色鉛筆画同好会	色鉛筆画
９月	Gift of Life 作品展	公益財団法人静岡県腎臓バンク	絵画
10月	デコパージュ展示	デコパージュ鈴木教室	デコパージュ
11月	萬象書展	神谷　萬象（仁三）	大字書
12月	萬象書展	神谷　萬象（仁三）	大字書
１月	押花展	押花グループ葵	押花絵

展示月	展示会名	団体名	出展作品
２月	ＭＯＡ美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児童作品展実行委員会	絵画・書
３月	ＭＯＡ美術館富士児童作品展	MOA美術館富士児童作品展実行委員会	絵画・書

（７）院内コンサート　演者：元吉原ウィンドアンサンブル（12 月 16 日）

（８）接遇研修　講師：株式会社オフィスあん　松下直子先生（１月６日）

（９）エントランスホール飲食用テーブルセットに係る検討及び移動

(10) エントランスホール記載台にプライバシー保護用の仕切り設置

(11) 受付機及び保険証確認窓口付近の患者さんの動線検討及び案内表示等の変更

(12) 携帯電話使用に関する点検、検討及び周知

(13) 院内リラクゼーション施設に係る検討

(14) 正面玄関前広場へのベンチ設置

4　来年度の課題

お礼状の報告、あいさつ運動、院内掲示物の巡回、花壇の維持管理及び院内コンサートを引き続き実施する。院内ギャラリーについては、出展者の募集に関する周知方法を工夫したい。また、院内の案内表示をよりわかりやすくするための検討を行い、医師への接遇研修参加勧奨等を行うことで患者サービスの向上を図っていく。

（文責　遠藤　さよ子）

■学術活動推進委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	津嶋　友央（医局長：皮膚科）～8月
副委員長	平川　正彦（医局長：形成外科）9月～	委員	谷島　雄一郎（外科）～12月
委員	坪井　一人（外科）１月～	委員	藤澤　睦子（副看護部長）
委員	小林　由美（７Ａ病棟）	委員	鈴木　和訓（中央放射線科）
委員	柴田　貴子（薬剤科）	委員	木内　啓人（病院経営課）
委員	岩垣　哲也（医事課（地域連携室））	委員	島田　英介（医事課）
事務局	秋山　英希（病院総務課）		

2　開催回数

12回（毎月１回、第３水曜日）

3　平成26年度の取組実績

当院における学術活動の企画・立案・運営及び学術に関する病院資産の有効活用を目的に平成24年度に設置された。

毎月開催した定例会では、学術活動のあり方を積極的に検討し、富士市医師会との共催開催である「第29回富士シンポジウム」、年２回開催の「第８・９回市民公開講座」、開院記念式典と合わせて開催している「第31回院内学術集会」の３大事業を成功裏に開催することができた。なかでも、「第８回市民公開講座」に関しては、院内から講師として、道躰隆行医師（外科副部長）と小俣朋子管理栄養士（栄養科主査）の２名を起用し、「病的肥満に対する治療　－ 栄養管理から減量手術まで －」をテーマに開催し、当院で実際に行なえる最新の治療法と栄養管理を紹介することができた。

また、病院情報資産である病院年報・学術雑誌についても継続して刊行することができた。

4　来年度の課題

恒例事業として定着した「富士シンポジウム」、「市民公開講座」、「院内学術集会」については、アンケート結果の意見や前年度の反省点を改善し、更なる発展を目指す。特に年２回開催の「市民公開講座」に関しては、今後も外部講師による講演のみに頼らず、１回は院内から講師を起用し、当院で行っている治療法や術式、健康管理に役立つ情報等を積極的に発信していく。

また、病院年報についても、単なる病院概要や統計資料ではなく、当院の現状がわかりやすく伝わるよう改良を重ね、より良いものになるよう努めていく。

（文責　柏木　秀幸）

■病棟委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	後藤　博一（泌尿器科）	副委員長	森田　昌代（神経内科）
委員	山城　秀樹（代謝一般内科）	委員	内海　裕文（呼吸器内科）
委員	中野　真範（消化器内科）	委員	宇田川　崇（腎内科）
委員	阿部　裕一（循環器内科）	委員	田中　圭（心臓血管外科）～６月
委員	織井　恒安（心臓血管外科）７月～	委員	玉利　明信（小児科）～６月
委員	相良　長俊（小児科）７月～	委員	良元　和久（外科）
委員	田邊　登崇（整形外科）～10 月	委員	加藤　努（整形外科）11 月～
委員	平川　正彦（形成外科）	委員	野田　靖人（脳神経外科）
委員	栗原　和生（皮膚科）	委員	伊藤　敏谷（産婦人科）
委員	杉山　敦（眼科）	委員	森本　宰充（耳鼻咽喉科）
委員	勝山　直彦（歯科口腔外科）	委員	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	井出　宣孝（中央放射線科）	委員	西田　英明（臨床工学科）
委員	小俣　朋子（栄養科）	委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）
委員	落合　敏明（薬剤科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	植松　和子（集中治療室）	委員	水野　博代（４Ａ病棟）
委員	勝又　千壽子（５Ａ病棟）	委員	大塚　君子（６Ａ病棟）
委員	高井　みさ子（７Ｂ病棟）	委員	田中　慶子（外来Ａ）
委員	伊東　禎浩（病院経営課）	委員	白川　安俊（病院総務課）
委員	福良　孝生（医事課）	事務局	木内　啓人（病院経営課）

2　開催回数

12 回（毎月１回、第２木曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

各科の病棟配置及び病床配分について、毎月の病床利用率に基づき次年度の配分方針の検討を行った。また、入院患者の内服薬管理についてワーキンググループを設置し最善策を検討した。内服薬管理については、ワーキンググループにより電子カルテシステムのオプション機能を用いた管理方法が提案されたが、新たに発生するリスクが解消できずに採用には至らず、改めてマニュアルの作成等を検討していくこととなった。

人工呼吸器等の機器管理については、平成 26 年４月に病棟貸出し用人工呼吸器不足時対応マニュアルを作成し、レンタル手続き等をより迅速に行えるように整備した。

4　来年度の課題

今後も病床利用率等を参考にしながら、病床配分について検討を行っていく。また、入院診療の適切な管理と円滑な運用に関わる課題について広く検討をしていく。

（文責　後藤　博一）

■院外処方体制整備委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	落合　敏明（薬剤科）
委員	梶本　徹也（外科）	委員	津嶋　友央（皮膚科）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	田中　慶子（外来Ａ）
委員	齋藤　幸子（医事課（地域連携室））	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	福良　孝生（医事課）	委員	加藤　寛史（薬剤科）
委員	三澤　延司（薬剤科）	委員	前嶋　健二（医事課）
事務局	春山　辰巳（病院経営課）		

2　開催回数

１回（６月）

3　平成 26 年度の取組実績

（１）院外処方実施後の検証

院外処方移行後１年が経過したため、問題点や成果についての検証を行った。

薬剤師による病棟業務について検証を行った。

（２）院外処方せん運用マニュアル（院内用）の一部変更について

薬剤科で改正案を作成した。

（３）院外処方打合せ会の開催

院外処方への移行に伴い、富士市、富士宮市、沼津市の薬剤師会の代表及び当院周辺出店薬局と、より具体的な意見交換を行うために打合せ会を実施した。

ア　実施回数　２回（６月、10 月　平成 25 年度は４回開催）

イ　内　　容　院外処方に関するマニュアルの見直しの検討

4　来年度の課題

院外処方に関するマニュアルの運用、薬剤師による病棟業務、疑義照会の状況及び保険薬局からの意見を聴取するなど、より円滑な運用に向けて検証を行っていきたい。

（文責　笠井　健司）

■女性医師等就労環境改善委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	秋山　直枝（小児科）
委員	藤谷　暢子（眼科）	委員	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	野田　文子（臨床検査科）	委員	大石　悦子（３Ｃ病棟）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	齋藤　千賀子（病院総務課）
事務局	帯津　百枝（病院総務課）		

2　開催回数

５回（うち１回は講演会）

3　平成 26 年度の取組実績

仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境の整備、女性医師等の確保や離職防止を目的に、子育て等で仕事と家庭の両立が難しく、離職や離職後の再就業に不安を抱える女性医師等の就業に係る調査・研究・支援などの活動を実施。

【職員アンケートの結果報告】

昨年度全職員を対象に実施したワークライフバランスに関するアンケートについて、集計結果報告。

【委員会】

４回実施：平成 26 年 11 月 11 日（火）、平成 26 年 12 月 25 日（木）、
平成 27 年　３月 11 日（水）、平成 27 年　３月 20 日（金）

内　　容：提言書の作成（休暇の取りやすい環境づくり、病児保育の実施、
24 時間保育の実施等）、講演会について　等

【講演会】

日　　時：平成 27 年　３月 20 日（金）17:30～18:30

参加人数：79 名

内　　容：働く女性のための講演会「簡単に作れるお弁当や夕飯、食材の保存等」

講　　師：料理講師・アマチュアマジシャン　望月　由紀子　氏

【その他】

保育所について、他院への調査実施

4　今後の課題

当院におけるワークライフバランスの推進を図るため、職員アンケート結果による職員の声を元に、より良い職場環境の改善について引き続き提言をしていく。

働く女性の職場環境改善だけでなく、広く働く女性を支援していく。

（文責　伊藤　すみ子）

■外来委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副委員長	藤谷　暢子（眼科）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	木村　哲夫（呼吸器内科）
委員	鳥巣　勇一（消化器内科）	委員	三川　秀文（循環器科）
委員	田中　圭　（心臓血管外科）	委員	秋山　直枝（小児科）
委員	梶本　徹也（外科）	委員	田邊　登崇（整形外科）
委員	平川　正彦（形成外科）	委員	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）
委員	栗原　和生（皮膚科）	委員	鈴木　英訓（泌尿器科）
委員	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	宇野　匡祐（耳鼻咽喉科）
委員	松井　洋　（放射線科）	委員	銅谷　実（麻酔科）
委員	井出　正俊（歯科口腔外科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	北島　美鈴（外来Ａ）	委員	小松崎　敏子（外来Ｃ）
委員	後藤　光子（外来Ｄ）	委員	西家　裕子（外来Ｂ）
委員	石川　隆之（臨床検査科）	委員	遠藤　佳秀（中央放射線科）
委員	西田　英明（臨床工学科）	委員	中村　公美（リハビリテーション科）
委員	加藤　寛史（薬剤科）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
委員	齋藤　幸子（医事課（地域連携室））	事務局	寺田　和子（医事課）
事務局	前嶋　健二（医事課）		

2　開催回数

11回

3　平成26年度の取組実績

・地域医療支援病院の承認に向けて、紹介・逆紹介率向上のため、診療情報提供書の様式や仕様に関する改善提案、算定要件の院内周知等を図った。
・精神神経科の開設にあたり、審議のうえ運用案を提示した。
・セカンドオピニオン外来の受入体制、関係様式等について検討し、各委員会の承認を得て、平成27年1月より実施した。
・外来各部門で挙げられた問題点や要望等について議論し、院内の連携、改善を図った。

4　来年度の課題

外来部門に係るあらゆる問題、課題を取り上げ、解決を図る。

地域医療支援病院の承認を目指し、紹介・逆紹介率向上のための方策を提言していく。

（文責　笠井　健司）

■放射線安全管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	鈴木　康之(副院長兼産婦人科部長)	副委員長	井出　宣孝（中央放射線科）
委員	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）	委員	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	清水　則雄（中央放射線科）	委員	遠藤　一弘（中央放射線科）
委員	秋田　真弓（中央放射線科）	委員	神田　直樹（中央放射線科）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	中川　貴裕（病院総務課）
委員	玉舟　正弥（病院総務課）		

・安全管理責任者　　井出　宣孝
・放射線取扱主任者　　遠藤　一弘、秋田　真弓、神田　直樹
・管理区域担当者　　清水　則雄
・健康管理医　　藤井　常宏
・施設管理責任者　　白川　安俊
・施設管理担当者　　中川　貴裕
・法令担当者　　玉舟　正弥

2　開催回数

1回

平成 26 年度の取組実績

・放射線障害防止法および予防規程により定められた以下の項目を実施した。

個人被ばく線量測定	12 回／年
健康診断	2回／年
環境測定	2回／年
自主点検（放射線治療室、RI 室、X線撮影室）	2回／年
教育訓練	1回／年
放射線管理状況報告書提出	1回／年
保健所立入検査	1回／年
RI 使用予定届提出	1回／年

4　来年度の課題

（1）保健所立入り検査結果について

特殊健康診断受診率が低いので、向上するように働きかける。

RI 施設使用の排水層が老朽化しているため、更新を検討する。

（2）診療業務従事者について

特定健康診断受診及び教育訓練参加の向上に対する取り組みを図る。

（文責　鈴木　康之）

■災害対策委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	杉沢　利次（事務部長）
委員	田中　圭（心臓血管外科）～６月	委員	平川　正彦（形成外科）
委員	後藤　博一（泌尿器科）	委員	遠藤　泰彦（病理科）
委員	宇田川　崇（腎内科）	委員	北村　博顕（外科）
委員	落合　敏明（薬剤科）	委員	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	井出　宣孝（中央放射線科）	委員	伊藤　すみ子（副看護部長）
委員	勝山　弘子（３Ｂ病棟）	委員	伊東　禎浩（病院経営課）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
委員	中川　貴裕（病院総務課）	委員	齋藤　忠昭（警備室）
事務局	玉舟　正弥（病院総務課）	事務局	秋山　英希（病院総務課）

2　開催回数

12回（毎月第１火曜日）

3　平成26年度の取組実績

（１）災害対策訓練の実施

６月21日（土）、①災害対策本部員による「災害対策本部立ち上げ及び実動訓練」、②各部門担当職員による「EMERGO（机上訓練）」、③DMAT隊員による「DMAT活動拠点本部設置訓練」を行った。３つの訓練を同時進行することにより、訓練で生じた課題や障害を互いに検証し合うことができた。

（２）救護所訓練の実施

11月８日（土）、外部講師を招き、院内講師とともに、診療部と看護部を対象に外傷初期診療理論を学習した。診療部は標準外傷診療コースのJATECに準じた訓練を行い、看護部はトリアージの必要性の理解と２次トリアージの実施までを学習した。

（３）職員用備蓄食糧購入

平成25年度からの継続事業。災害時に勤務する職員のために、全職員の１日分にあたる備蓄食糧の購入を開始した。保管場所や処分方法等を鑑み、５年間で必要数を確保する計画となっている。

（４）DMATの強化・育成

平成26年5月11～14日開催の「平成26年度第１回（東日本会場第１回）DMAT養成研修」において、受講者５名（診療部１名、看護部２名、診療技術部２名）

全員が資格を取得したことにより、平成26年度末の時点で２チーム体制（計10名）を構築することができた。

（５）その他

訓練で生じた課題や日常業務から浮上した災害時における諸問題の検討及び解消を行った。

外部機関主催の訓練「平成26年度静岡県総合防災訓練」、「静岡県東部消防長会東部地区消防大規模災害対応合同訓練」、「中部ブロックDMAT実動訓練」へのDMAT隊員派遣等、病院として積極的に訓練や研修会に参加した。

富士市医師会を通じ、JMATに１チーム（５名）登録を行った。

４　来年度の課題

繰り返し災害対策訓練を実施し、職員一人ひとりの災害医療に対する技術及び知識の向上を目指す。

富士市地域防災計画及び富士市立中央病院地震防災計画に基づき、災害拠点病院としての使命を果たせるよう災害対策用設備及び資機材等の配備計画を行う。

国・県等が主催する災害対策訓練へ積極的に職員を派遣し、関係機関との連携強化を図っていく。

（文責　諸岡　暁）

■防火管理委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	遠藤　さよ子（副院長兼看護部長）
副委員長	杉沢　利次（事務部長）	委員	柏木　秀幸（副院長）
委員	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）	委員	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）
委員	藤井　常宏（代謝一般内科）	委員	高橋　昌子（臨床検査科）
委員	井出　宣孝（中央放射線科）	委員	藤本　浩二郎（診療技術部長）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	藤澤　睦子（副看護部長）
委員	伊東　禎浩（病院経営課）	委員	白川　安俊（病院総務課）
委員	福良　孝生（医事課）	委員	中川　貴裕（病院総務課）
委員	齋藤　忠昭（警備室）	事務局	塩澤　忠生（病院総務課）

2　開催回数

2回（10月、２月）

3　平成26年度の取組実績

・消防法の規定に基づき、院内消防訓練を２回実施した。

第１回は10月23日に実施した。５Ａ病棟での夜間を想定した病棟避難訓練、業者による消火設備の説明、病棟からの降下訓練及び消火栓を用いた初期消火訓練を実施した。

第２回は２月16日に実施した。第１回と同様の病棟避難訓練を４Ａ病棟で行い、業者による消火設備の説明を受けた。その後、更新した救助袋を用いた降下訓練を実施した。

4　来年度の課題

平成27年度も引き続き消防訓練を実施し、職員の防火意識の向上を図っていく。

（文責　諸岡　暁）

■虐待対策委員会

1　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁（副院長兼脳神経外科部長）	副委員長	藤井　常宏（代謝一般内科）
委員	瀬川　孝昭（小児科）	委員	加藤　努　（整形外科）
委員	日馬　由貴（小児科）	委員	山田　浩介（小児科）
委員	伊藤　すみ子（副看護部長）	委員	北島　美鈴（外来Ａ）
委員	秋山　ゆかり（３Ｂ病棟）	委員	東川　真理（４Ｂ病棟）
委員	白川　安俊（病院総務課）	委員	福良　孝生（医事課）
委員	江村　宏子（医事課（地域連携室））	事務局	岩垣　哲也（医事課（地域連携室））

2　開催回数

５回（月１回、第３水曜日）

3　平成 26 年度の取組実績

虐待対応マニュアルの作成において、先ず児童虐待への対応マニュアル作りに着手した。他院のマニュアルを参考にしつつも当院の実状に合ったものへの変換に時間を要したため、完成は次年度への持ち越しとなった。

今後は完成した児童虐待対応マニュアルをベースに、高齢者や障害者への虐待対応マニュアル及び DV 対応マニュアルの整備を行う。

また、院内への周知と啓発のための研修会や講演会を計画する。

4．来年度の課題

・児童虐待対応マニュアルの完成
・職員を対象とした研修会や啓発講演会の開催
・高齢者や障害者虐待対応マニュアルの作成と DV 対応マニュアルの作成

（文責　諸岡 暁）

■臨床研修センター

1　設置

富士市立中央病院の医師臨床研修を運営する機関として、平成27年1月1日、富士市立中央病院臨床研修センターを設置。

2　役割

臨床研修センターは、初期臨床研修医の育成に関わる。具体的には、初期臨床研修医の募集・採用、研修プログラムの策定、評価や修了認定など、研修全般の運営、さらに臨床研修医の精神的支援など、研修プログラムの円滑な実施のため、院内診療科や地域の協力病院と連携して活動をする。

3　組織

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
センター長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	副センター長	梶本　徹也（外科）
指導主任	良元　和久（外科）	臨床研修医	一場　剛
事務局	病院総務課		

4　平成26年度の取組実績

（1）臨床研修センター設置要綱を規定し、臨床研修センターを設置

（2）臨床研修医室の改修

（3）ウェブサイトの全面的見直し

（4）臨床研修案内の作成

（5）臨床研修指導医養成講習会への医師派遣

（6）研修の実施

スキルアップ研修（初期・後期臨床研修医対象）

・平成27年1月30日（金）テーマ「縫合」

・平成27年2月27日（金）テーマ「縫合」

（7）平成26年度　臨床研修プログラムの実例

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年	必　修 内　科						選択 放射線科		選択必修 麻酔科	選択必修 外科		必修 （救急） 外科
2年	選択必修 小児科		必修 （救急） 小児科	選択必修 産婦人科		選択 （救急） 産婦人科	必修 地域医療	選択必修 精神科	選　択			

（文責　笠井　健司）

■富士市透析防災ネットワーク

平成 22 年４月、富士市内の７透析施設と富士市役所防災危機管理課、保健医療課の代表者が集まり、富士市透析防災ネットワークが発足した。

会長を笠井副院長、事務局を病院総務課とし、医療機関と行政が連携して「大規模地震等の災害時において、透析治療を必要とされる方が、安心して治療を受けることができるように、富士地区透析施設におけるネットワークを構築する」ことを目的に、体制の整備、訓練、啓発活動を行っている。

１　スタッフ

富士市立中央病院

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
会長	笠井　健司（副院長兼腎内科部長）	メンバー	西田　英明（臨床工学科）
メンバー	山元　義雄（臨床工学科）	メンバー	佐野　達哉（臨床工学科）
メンバー	勝間田　賢（臨床工学科）	メンバー	諏訪部　新（臨床工学科）
メンバー	杉山　弘一（臨床工学科）	メンバー	花﨑　久美子（６Ｂ病棟）
メンバー	山中　祐子（６Ｂ病棟）	事務局	玉舟　正弥（病院総務課）

参加透析施設

施　設　名	職　種
加藤クリニック	医師、臨床工学技士、看護師
共立蒲原総合病院	医師、臨床工学技士、看護師
新富士病院	医師、臨床工学技士、看護師
聖隷富士病院	医師、臨床工学技士、看護師
東名富士クリニック	医師、臨床工学技士、看護師
富士第一クリニック	医師、臨床工学技士、看護師

（五十音順）

参加行政機関

施　設　名	職　種
富士市総務部防災危機管理課	事務
富士市保健部保健医療課	事務

（五十音順）

２　開催回数

施設代表者会議１回、実務者会議６回

3　平成26年度の取組実績

（1）富士市透析防災講演会の開催

平成26年10月12日（日）富士市フィランセ西館4階大ホールにて透析患者向け講演会を開催した。講演内容は以下の通りである。

来場者数：一般参加者　77名　スタッフ　41名

①災害時の食事について

（共立蒲原総合病院管理栄養士　中西　融依）

②災害時を乗り切るために知っておきたいこと

（富士市透析防災ネットワーク会長　笠井健司）

日	時	場所	内容	参加人数
H26. 4. 24	19:00	中央病院	H26年度第1回実務者会議	18
H26. 6. 26	19:00	中央病院	H26年度第2回実務者会議	16
H26. 8. 21	19:00	中央病院	H26年度第3回実務者会議	20
H26. 9. 18	19:00	富士市フィランセ	H26年度第4回実務者会議	23
H26. 10. 12	19:00	富士市フィランセ	透析防災講演会	41
H26. 12. 11	19:00	中央病院	H26年度第5回実務者会議	15
H27. 3. 24	19:00	富士第一クリニック	施設代表者会議	6
H27. 3. 26	19:00	富士第一クリニック	H26年度第6回実務者会議	26

4　来年度の課題

来年度も引き続き透析患者向けの講演会を行う。また、第2種拠点透析施設を中心に透析機器研修を行うとともに、マニュアルの改訂作業を実施する。

（文責　笠井　健司）

■富士市ＣＫＤ（慢性腎臓病）ネットワーク運営委員会

１　スタッフ

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
会長	笠井　健司（富士市立中央病院）	副会長	杉浦　宜樹（富士市医師会）
会員	山田　秀生（富士市医師会）	会員	内田　光一（聖隷富士病院）
会員	高山　明美（聖隷富士病院）	会員	井上　俊介（聖隷富士病院）
会員	宇田川　崇（富士市立中央病院）	会員	齋藤　幸子（富士市立中央病院）
会員	福良　孝生（富士市立中央病院）	会員	岩垣　哲也（富士市立中央病院）
会員	金森　映夫（富士市国保年金課）	会員	水野　澄子（富士市国保年金課）
会員	中林　弘一（富士市健康対策課）	会員	稲葉　清美（富士市健康対策課）
事務局	小川　弥生（富士市健康対策課）	事務局	渡辺　弘子（富士市健康対策課）
事務局	伊東　嘉津美（富士市健康対策課）		

２　開催回数

委員会：３回

街頭キャンペーンや市内各種イベントへの参加、講演会の開催

３　平成 26 年度の取組実績

・定例会（３回）を開催し、市内各種イベントにおいて PR やアンケートを実施した。

・講演会を開催し、一般市民への啓発と普及を図った。

・特定健診実施医療機関からマニュアルに基づく紹介により、ネットワークへの登録を実施。日常的な管理はかかりつけ医が行い、定期的に専門医を受診する医療連携の仕組み（二人主治医制）を実施した。

・医師会会員への研修会を実施した。

・特定健診データやネットワーク登録患者データを分析し、保健指導等に活用した。

４　来年度の課題

・市民への啓発促進、講演会の開催

・データの集積と分析

【長期目標】

①透析患者数の減少　②新規透析導入者の減少　③心疾患、脳血管疾患死亡者の減少　④特定健診受診者の高血圧の割合減少 eGFR 区分 G4,5 割合減少

（文責　富士市ＣＫＤネットワーク　会長　笠井　健司）

■省資源・省エネルギー対策推進委員会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	杉沢　利次（事務部長）	副委員長	津嶋　友央（皮膚科）
副委員長	伊藤　すみ子（看護部長室）	委員	14名

■メディカルコントロール委員会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	諸岡　暁(副院長兼脳神経外科部長)	副委員長	銅谷　実（麻酔科）
委員	９名		

■終末期医療対策委員会

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	梶本　徹也（外科）	副委員長	遠藤　さよ子(副院長兼看護部長)
委員	５名		

■２Ｃ外来開設連絡会議

役　職	氏　　名	役　職	氏　　名
委員長	柏木　秀幸（副院長）	副委員長	鈴木　康之（副院長兼産婦人科部長）
委員	10名		